

プログラム

◆学会長講演

10月30日(木) 10:20～11:10 第1会場(中ホール)

フェーズフリーの地域づくりと健康危機管理

座長：谷川 武（順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座）

演者：尾島 俊之（浜松医科大学健康社会医学講座）

◆講演 1

10月29日(水) 11:10～12:00 第1会場(中ホール)

厚生労働行政の現状・課題について

座長：田中 一成（静岡市保健福祉長寿局）

演者：迫井 正深（厚生労働省 医務技監）

◆講演 2

10月29日(水) 13:30～14:20 第1会場(中ホール)

音楽とともにある公衆衛生 —人々の中へ、そして公衆衛生の力に—

座長：曾根 智史（国立保健医療科学院名誉院長）

演者：オペラやクラシックを通じた子どもや子育て世代への支援 —音楽がつなぐ親と子、人と人—

松居 美樹（るーば（絵本 de オペラ）・声楽家）

公衆衛生が「art」であるという意味 —音楽を通じて考える公衆衛生の原点—

守田 孝恵（獨協医科大学 大学院 看護学研究科）

ファシリテーター：田邊安紀恵（るーば（絵本 de オペラ）・ピアニスト）

◆講演 3

10月29日(水) 16:10～17:00 第1会場(中ホール)

健康長寿のヒントは宇宙にある ～長期宇宙滞在ミッションを通して見えるもの～

座長：田中 一成（静岡市保健福祉長寿局）

演者：金井 宣茂（宇宙航空研究開発機構）

◆講演 4

10月30日(木) 9:00～9:50 第3会場(会議ホール)

質と量の統合によって「サプライズ」な洞察を：混合研究法 ～混合研究法を公衆衛生分野でもっと活かそう！～

座長：亀井 智子（聖路加国際大学）

河村 洋子（産業医科大学）

演者：混合研究法を公衆衛生分野でもっと活かそう！

河村 洋子（産業医科大学）

亀井 智子（聖路加国際大学）

◆講演 5

10月31日(金) 13:10～14:00 第5会場(1001-1)

労働の現場で人々の健康向上を支援する—ILO アジア産業保健技術協力の経験から—

座長：中村 桂子（東京科学大学）

演者：川上 剛（大原記念労働科学研究所）

◆メインシンポジウム 1

10月29日(水) 14:30~16:00 第1会場(中ホール)

フェーズフリーの地域づくりと健康危機管理

座長：尾島 俊之（浜松医科大学健康社会医学講座）
奥田 博子（国立保健医療科学院）
演者：牧之原市における地域づくりと災害への備え
古川 馨子（静岡県牧之原市役所健康推進課）
足立区における顔と顔が見える地域づくり
馬場 優子（足立区衛生部）
生活協同組合による普段からのつながりづくりと災害時の被災者支援
中谷 隆秀（長野県生活協同組合連合会）
フェーズフリーなまちづくり
菅野 拓（大阪公立大学大学院文学研究科）
指定発言者：遠藤 綾子（陸前高田市福祉部保健課）

◆メインシンポジウム 2

10月30日(木) 13:10~14:40 第2会場(交流ホール)

健康寿命日本一への挑戦

座長：橋本 修二（藤田医科大学）
島村 通子（静岡県健康福祉部福祉長寿局介護保険課）
演者：健康寿命の延伸に向けた静岡県の取組
平山 朋（静岡県健康福祉部健康局健康政策課）
住み慣れた地域で暮らし続けるための、予防重視の保健活動と住民主体の介護予防の展開
宮下久美子（長野県伊那市健康福祉部健康推進課保健係）
地方創生の観点から、金融を通じた県民の健康寿命の延伸や企業の健康経営に向けた取組
中島 啓之（大分県信用組合）
「総ぐるみ」で健康寿命を延ばすための公衆衛生マーケティング
近藤 尚己（京都大学）
指定発言者：尾島 俊之（浜松医科大学健康社会医学講座）

◆市民公開講座

10月29日(水) 18:50~20:40 第1会場(中ホール・大地)

映画上演 終わりの見えない闘い ～新型コロナウイルス感染症と保健所

世話人：城所 敏英（公衆衛生保健所活動研究会）

◆開会式

10月29日(水) 10:30~11:00 第1会場(中ホール・大地)

◆ハレルヤコーラス

10月29日(水) 17:50~18:00 第18会場(大ホール・海)

ヘンデル「メサイヤ」から第4番 And glory of the load、第44番 Hallelujah !

指揮：佐藤 宏之
演奏：第84回日本公衆衛生学会合唱団

◆意見交換会

10月29日(水) 18:00～18:40 第18会場(大ホール・海)

◆総会

10月30日(木) 18:00～18:30 第1会場(中ホール・大地)

◆閉会式

10月31日(金) 17:00～17:30 第1会場(中ホール・大地)

◆シンポジウム1

10月28日(火) 14:40～16:10 第3会場(会議ホール)

巨大災害の根本的問題へ公衆衛生の力で挑戦する ～直接死を防ぐ災害一次予防～

座長：栗山 進一(東北大学災害科学国際研究所)

福島 洋(東北大学災害科学国際研究所)

演者：静岡県での防災行動変容の取り組み

若林 克茂(静岡県庁)

住民の防災行動変容を後押しするためのコミュニケーションとは

小杉 素子(静岡大学)

ソーシャルマーケティング手法を活用した行動変容を促す啓発メッセージ開発のエッセンス

遠峰 良美(株式会社キャンサーズキャン)

住民の行動変容を促進させるための社会的介入の一案

大類 真嗣(東北大学災害科学国際研究所災害公衆衛生学分野)

◆シンポジウム2

10月29日(水) 8:45～10:15 第1会場(中ホール)

新時代の感染症危機管理体制の構築と課題

座長：四宮 博人(愛媛県立衛生環境研究所)

吉村 和久(東京都健康安全研究センター)

演者：感染症危機管理体制の構築に向けて ー行政の立場からー

木庭 愛(厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課)

わが国の感染症危機管理体制における国立健康危機管理研究機構の役割

脇田 隆字(国立健康危機管理研究機構)

我が国の感染症危機管理における医療機関の状況と課題

谷口 清州(国立病院機構三重病院・臨床研究部)

感染症対策に関する地域健康危機管理における保健所と地方衛生研究所およびJIHSとの連携

白井 千香(枚方市保健所)

新たな感染症危機管理体制における地方衛生研究所の対応と課題

四宮 博人(愛媛県立衛生環境研究所)

◆シンポジウム 3

10月29日(水) 8:50~10:20 第2会場(交流ホール)

公衆衛生に国境はない (Public Health without Border)

座長：中村 安秀 (日本 WHO 協会)

大西眞由美 (長崎大学生命医科学域 (保健学系))

演者：移民の健康ーグローバルな公衆衛生課題

岩本あづさ (国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局)

今や国際協力の現場における「心のケア」の標準モデルとなった心理社会的支援とは

桑山 紀彦 (海老名こころのクリニック)

インドネシアとパレスチナの母子健康手帳

當山 紀子 (大阪大学大学院医学系研究科附属次のいのちを守る人材育成教育研究センター)

◆シンポジウム 4

10月29日(水) 15:30~17:00 第2会場(交流ホール)

介護予防事業における戦略的ロジックモデルの展開：行政レベルと現場レベルの PDCA

座長：村山 洋史 (東京都健康長寿医療センター研究所)

甲斐 裕子 (公益財団法人 明治安田厚生事業団 体力医学研究所)

演者：ロジックモデルによる戦略的ツールを活用した介護予防・フレイル予防事業の PDCA

倉岡 正高 (東京都健康長寿医療センター研究所)

北区全高齢者実態把握調査結果における介護予防及び日常生活支援に資する PDCA

新井 好子 (東京都北区福祉部高齢福祉課)

データに基づいた地区診断を活用した介護予防業務における PDCA の取組

藤原 莉菜 (横浜市 健康福祉局 高齢健康福祉部 地域包括ケア推進課)

介護予防の取組における行政・現場レベルでの評価 (Check)：2 自治体の実践事例をもとに

清野 諭 (山形大学 Well-Being 研究所)

◆シンポジウム 5

10月29日(水) 9:10~10:40 第3会場(会議ホール)

地域リハビリテーションのあり方を考える

座長：大淵 修一 (東京都健康長寿医療センター)

演者：「地域リハビリテーション」オーバービュー

仲 貴子 (帝京平成大学 健康医療スポーツ学部)

高齢者の働きたい気持ちを活かせる地域リハビリテーション

酒井 美園 (東京国際大学 医療健康学部)

すべての子が地元で学べる地域リハビリテーション

陣内 裕成 (日本医科大学)

慢性疾患患者の“はたらく”と地域リハビリテーション

田中 康之 (千葉県千葉リハビリテーションセンター)

◆シンポジウム 6

10月29日(水) 11:15～12:45 第3会場(会議ホール)

自治体で検討すべき超高齢社会での高齢者肺炎のマネジメントの重要性

- 座長：角野 文彦（びわこリハビリテーション専門職大学）
福島 若葉（大阪公立大学大学院医学研究科公衆衛生学）
- 演者：超高齢社会における高齢者肺炎の予防戦略と統合的ケアモデルの提案
山本 寛（地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 呼吸器内科）
誤嚥性肺炎の予後を分ける口腔ケア・口腔健康管理の重要性
今井 健一（日本大学歯学部 感染症免疫学）
自治体基盤ワクチンデータベースを用いた高齢者肺炎の疾病負荷とワクチンの有効性
福田 治久（九州大学大学院医学研究院）
超高齢社会における肺炎予防 ～最新知見に基づく肺炎球菌ワクチンを中心とした統合的戦略～
中島 啓（医療法人鉄蕉会亀田総合病院呼吸器内科）
- 指定発言者：白井 千香（枚方市保健所）

◆シンポジウム 7

10月29日(水) 14:20～15:50 第3会場(会議ホール)

健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023 を踏まえた身体活動・運動分野の推進

- 座長：小熊 祐子（慶應義塾大学 スポーツ医学研究センター）
小野 玲（国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所）
- 演者：身体活動推進のためのロジックモデルとアクションプラン
菊池 宏幸（東京医科大学公衆衛生学分野）
筋力トレーニングのポイント：Beyond One-Way Communication
門間 陽樹（国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所）
座りすぎ・座りっぱなし対策の推進
岡 浩一朗（早稲田大学 スポーツ科学学術院）
歩数アップ、運動習慣確立のポイント
井上 茂（東京医科大学 公衆衛生学分野）

◆シンポジウム 8

10月29日(水) 16:05～17:35 第3会場(会議ホール)

産衛・公衛 2 学会合同企画 災害対応における地域と職域のフェーズフリーな協働推進

- 座長：岩本 萌（東北大学大学院 医学系研究科保健学専攻）
立石清一郎（産業医科大学 災害産業保健センター）
- 演者：災害時における行政職員の役割と健康管理体制の課題
武智 浩之（群馬県健康福祉部感染症・疾病対策課）
多機関との協働で備える自治体保健師の健康危機管理活動の実践
齊藤 和美（大阪市平野区保健福祉センター）
災害時エッセンシャルワーカー支援と事業継続計画
澤島 智子（JR 東海 健康管理センター 東京健康管理室）
能登半島地震における自治体職員の健康管理支援活動：J-SPEED 健康チェックの取り組み
村山 華子（広島大学 大学院医系科学研究科公衆衛生学）

◆シンポジウム 9

10月29日(水) 9:30～11:00 第4会場(1001-2)

多死社会に伴う公衆衛生上の課題と展望

座長：高杉 友（近畿大学）

武藤 剛（北里大学）

演者：多死社会の公衆衛生上の課題と法整備：全国調査に基づく御遺体取扱い葬儀社ガイダンス案

武藤 剛（北里大学医学部衛生学）

多死社会における検案の実際と法医学からの展望

猪口 剛（千葉大学大学院医学研究院附属法医学教育研究センター）

葬儀社・安置室の室内環境の実態と基準のあり方

鍵 直樹（東京科学大学）

新型コロナウイルスのパンデミックからの教訓と今後に向けて

和田 耕治（国立健康危機管理研究機構）

指定発言者：鈴木 規道（千葉大学予防医学センター）

黒須 一見（国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所）

◆シンポジウム 10

10月29日(水) 12:40～14:10 第4会場(1001-2)

災害関連死のない社会を目指す～地方ブロック内の DHEAT 連携訓練を通して～

座長：武智 浩之（群馬県健康福祉部感染症・疾病対策課）

服部希世子（熊本県有明保健所（兼）山鹿保健所）

演者：九州ブロック DHEAT 訓練を通じたブロック内 DHEAT 連携と県内の体制整備

川上 総子（長崎県西彼保健所（兼）長崎県福祉保健部地域保健推進課）

令和6年能登半島地震を踏まえた東海・北陸 DHEAT ブロック訓練～保健医療福祉調整本部等の設置～

小倉 憲一（富山県厚生部医務課）

DHEAT 訓練を通じた県・政令市の連携について

城間 紀之（広島市健康福祉局保健部健康推進課）

連携を進化させる DHEAT ブロック訓練ひな形と実践の工夫

池田 和功（和歌山県新宮保健所）

指定発言者：宇田 英典（一般社団法人日本公衆衛生協会）

◆シンポジウム 11

10月29日(水) 14:20～15:50 第4会場(1001-2)

電子版母子健康手帳・母子保健 DX 時代の母子保健活動のあり方

座長：竹原 健二（国立成育医療研究センター 政策科学部）

山縣然太郎（国立成育医療研究センター 成育こどもシンクタンク）

演者：電子版母子健康手帳ガイドラインについて

山縣然太郎（国立成育医療研究センター成育こどもシンクタンク）

◆シンポジウム 12

10月29日(水) 16:05~17:35 第4会場(1001-2)

感染症危機に対応する人材育成の現在地と目的地

- 座長：和田 耕治（国立健康危機管理研究機構危機管理・運営局）
岩橋 慶美（広島市健康福祉局保健部兼西区厚生部（西保健センター））
演者：日本公衆衛生協会が実施する自治体職員等への健康危機管理研修の課題と今後の展望
高岡 誠子（一般財団法人 日本公衆衛生協会）
厚生労働省委託事業 感染症危機管理リーダーシップ研修：感染症危機管理対応の体制強化に向けた人材育成
福田 哲也（国立健康危機管理研究機構 危機管理・運営局 企画調整部 政策研究課 研究開発連携室）
アカデミアを通じた感染症危機管理に資する人材のメンタリングとトレーニング
西浦 博（京都大学大学院医学研究科）
DMAT における感染症危機対応人材育成
近藤 久禎（国立健康危機管理研究機構 DMAT 事務局）

◆シンポジウム 13

10月29日(水) 8:50~10:20 第5会場(1001-1)

スポーツ振興・参加の促進要因の探索と支援政策の評価研究：多機関連携による重層的アプローチ

- 座長：近藤 克則（千葉大学）
金森 悟（帝京大学）
演者：スポーツ参加の促進要因・健康効果と、支援政策評価に関する研究の到達点と展望
辻 大士（筑波大学体育系）
産官学民の多機関連携に関する事例と展望
中村 宇一（スポーツ庁健康スポーツ課）
誰でも参加できる parkrun の魅力について
菊川 光徳（一般社団法人 parkrun Japan）
「日常のコミュニティづくりの場の提供と健康づくりを可能にする事業展開について」
下田 学（苫前町教育委員会）

◆シンポジウム 14

10月29日(水) 11:10~12:40 第5会場(1001-1)

地域包括ケアと災害保健医療福祉対策の連動：静岡県から考える“多文化共生”

- 座長：松本 良二（八千代リハビリテーション病院）
石田久美子（茨城県竜ヶ崎保健所）
演者：静岡県における災害時外国人支援の取り組み 外国人への期待
加山 勤子（（公財）静岡県国際交流協会）
外国人労働者と多文化共生：産業保健の立場から
内野 文吾（ヤマハ発動機株式会社 健康推進センター）
在日外国人×情報×防災：ブラジル人の事例を手がかりに
イシアンジェロ（武蔵大学社会学部教授）
多文化共生時代の災害対応
田村 太郎（一般財団法人ダイバーシティ研究所）
災害時においても医療は文化である
中村 安秀（公益社団法人 日本 WHO 協会）

◆シンポジウム 15

10月29日(水) 14:10～15:40 第5会場(1001-1)

ロジックモデルと指標を活用した医療福祉計画評価～取組例から見る定着への道筋～

座長：今村 知明（奈良県立医科大学）

埴岡 健一（国際医療福祉大学大学院）

演者：市町村における「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築」にロジックモデルを活かす

黒田 直明（国立精神・神経医療研究センター）

京都府保健医療計画におけるロジックモデル活用の取組

石田真一郎（京都府健康福祉部健康福祉総務課）

地域包括ケアシステム分野におけるロジックモデル活用に向けた取り組み

高嶺 公子（沖縄県保健医療介護部地域包括ケア推進課）

地域でのロジックモデルを活用した評価を支援するガイドブック・ツール類

吉田 真季（一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構）

指定発言者：大井久美子（厚生労働省 健康・生活衛生局 がん・疾病対策課）

長浜麻紀子（沖縄県 保健医療介護部 医療政策課）

◆シンポジウム 16

10月29日(水) 15:50～17:20 第5会場(1001-1)

若手 PI・研究者と考える日本の公衆衛生学研究・キャリアの未来 ～次世代に求められるコンピテンシーとは～

座長：杉山 雄大（国立健康危機管理研究機構医療 DX 部、筑波大学医学医療系ヘルスサービスリサーチ分野）

齋藤 良行（東京大学大学院薬学系研究科 医療政策・公衆衛生学講座）

演者：公衆衛生分野における女性研究者の挑戦と未来

木野 志保（東京科学大学 医歯学総合研究科 口腔疾患予防学分野）

若手公衆衛生研究者のキャリア戦略：学術的インパクトと実践的貢献の調和

宮脇 敦士（筑波大学医学医療系 社会医学研究グループ 公共健康政策分野）

多分野の架け橋としてエビデンスを創出し、実装する

井上 浩輔（京都大学 大学院医学研究科 健康増進・行動学分野）

米国公衆衛生大学院で感じる、若手研究者に求められるコンピテンシー

安富 元彦（ハーバード大学公衆衛生大学院）

◆シンポジウム 17

10月29日(水) 8:40～10:10 第6会場(908)

健康危機対策から外国人を取り残さない：多分野連携で築くリスクコミュニケーション

座長：須藤 章（兵庫県伊丹健康福祉事務所／全国保健所長会グローバルヘルス研究班）

藤田 雅美（国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局／みんなの外国人ネットワーク MINNA）

演者：外国人のヘルスリスクコミュニケーション・コミュニティエンゲージメント（RCCE）

加藤 美生（国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所感染症危機管理研究センター）

在日外国人コミュニティにおける新型コロナウイルス感染症集団感染時の保健所の対応事例

須藤 章（兵庫県伊丹健康福祉事務所）

外国人労働者を対象にしたヘルスハンドブック作成経験と課題

高橋 香（国際移住機関）

外国人コミュニティと保健医療関連機関とをつなぐ役割としての国際交流協会

松岡真理恵（公益財団法人浜松国際交流協会）

指定発言者：ファムグエンクイー（京都民医連病院）

◆シンポジウム 18

10月29日(水) 11:20~12:50 第6会場(908)

小規模自治体における持続可能な高齢者にやさしいまちづくりのエビデンスと実践

座長：辻 大士（筑波大学）

鄭 丞媛（新見公立大学）

演者：高齢者にやさしい社会環境に関するエビデンスと実践

井手 一茂（千葉大学予防医学センター健康まちづくり共同研究部門）

高齢者にやさしいまちにおける物理環境のエビデンスとデザイン

花里 真道（千葉大学予防医学センター健康都市・空間デザイン学）

神奈川県における高齢者に優しい地域づくりに向けた取組と多機関連携

曾我部勇貴（神奈川県いのち・未来戦略本部国際戦略グループ）

熊澤 大輔（神奈川県立保健福祉大学イノベーション政策研究センター）

高齢になっても住みやすい森町を目指して

内山紗央里（森町福祉課地域包括支援センター係）

指定発言者：木村美也子（昭和女子大学）

◆シンポジウム 19

10月29日(水) 13:00~14:30 第6会場(908)

データに基づく歯科口腔保健政策をすすめるために：研究と行政的視点から

座長：田口 円裕（東京歯科大学 歯科医療政策学）

小栗智江子（愛知県保健医療局健康医務部健康対策課）

演者：静岡県国保データベース（SKDB）を活用した地域の歯科口腔保健課題の可視化と政策展望

佐藤 洋子（静岡社会健康医学大学院大学社会健康医学研究科）

健康寿命日本一を支える静岡県の歯科保健政策

種村 崇（静岡県健康福祉部健康増進課）

今後の歯科保健医療施策について～歯科専門職の業務の実態調査等から～

奥田 章子（厚生労働省医政局歯科保健課）

データに基づく歯科口腔保健政策

相田 潤（東京科学大学大学院医歯学総合研究科 歯科公衆衛生学分野）

◆シンポジウム 20

10月29日(水) 14:40~16:10 第6会場(908)

公衆衛生学会の将来を展望するー将来構想検討委員会企画ー

座長：玉腰 暁子（北海道大学大学院医学研究院）

石原美千代（新宿区保健所）

演者：次世代と社会を育む公衆衛生の教育と人材育成

石川ひろの（帝京大学大学院公衆衛生学研究科）

エビデンスと実践の循環を促す研究基盤づくりへ

鈴木 孝太（愛知医科大学医学部衛生学講座）

社会と人々の健康に資する政策と実践への貢献

稲田 晴彦（東京大学医学系研究科公衆衛生学分野）

2040年の日本公衆衛生学会を構想する提言書

玉腰 暁子（北海道大学大学院医学研究院）

◆シンポジウム 21

10月29日(水) 16:20~17:50 第6会場(908)

保健所建物の新築・整備＝災害時と日常時をシームレスにつなぐグッドプラクティス＝

- 座長：宮園 将哉（大阪府岸和田保健所）
原田 昌範（山口県防府保健所／山口県立総合医療センター）
演者：自然災害や健康危機管理を想定した防府保健所の取り組み
市村 尚之（山口健康福祉センター防府保健所）
高知県の保健所庁舎整備事例
木多 彩子（高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻）
災害時を想定した保健所庁舎整備
池内 淳子（摂南大学 理工学部建築学科）
災害時を想定した保健所ワークプレイス整備 一平常時の「働きやすさ」を重ねて一
小林 健治（摂南大学理工学部建築学科）

◆シンポジウム 22

10月29日(水) 9:00~10:30 第7会場(映像ホール)

公衆衛生専門管理栄養士認定制度の創設

- 座長：由田 克士（大阪公立大学大学院 生活科学研究科 食栄養学分野 公衆栄養学）
諸岡 歩（兵庫県伊丹健康福祉事務所／日本栄養士会）
演者：公衆衛生専門管理栄養士認定制度の概要とプログラム
諸岡 歩（兵庫県伊丹健康福祉事務所／日本栄養士会）
戦略的な思考に基づく栄養施策の企画・立案について一戦略的プランニングガイドが目指すもの一
池内 寛子（栃木県保健福祉部健康増進課）
公衆衛生専門管理栄養士認定制度の創設とこれからの展望・展開
由田 克士（大阪公立大学大学院 生活科学研究科 食栄養学分野 公衆栄養学）
統括的役割が期待される行政管理栄養士のための自己評価尺度の開発に向けた研究
和田 安代（国立保健医療科学院生涯健康研究部）
指定発言者：塩澤 信良（厚生労働省 健康・生活衛生局 健康課 栄養指導室）

◆シンポジウム 23

10月29日(水) 11:10~12:40 第7会場(映像ホール)

静岡発！食と生活習慣チェック：健康寿命延伸のためのモニタリング調査の構築と活用

- 座長：中山 健夫（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野）
山本精一郎（静岡社会健康医学大学院大学）
演者：公衆栄養行政でPDCAをどうまわすか？ BDHQ データに基づく行政の気付きと住民の気付き
佐々木 敏（東京大学）
地域の栄養課題を“見える化”するデータ活用の試みー「食と生活習慣チェック」調査結果を施策へつなぐー
塩谷 祐実（静岡県富士市役所）
「静岡県民限定！食と生活習慣チェック」の構築と活用
佐藤 洋子（静岡社会健康医学大学院大学社会健康医学研究科）

◆シンポジウム 24

10月29日(水) 13:20～14:50 第7会場(映像ホール)

環境による健康リスク：公的データの活用で見えてくるもの

座長：橋爪 真弘（東京大学大学院医学系研究科 国際保健政策学）

荻田 香苗（杏林大学医学部 衛生学公衆衛生学）

演者：大気・水環境データの活用で見えてくるもの

荻田 香苗（杏林大学医学部 衛生学公衆衛生学）

情報の宝箱！健康リスク評価書にアクセスしてみよう

岩澤 聡子（防衛医科大学校 医学教育部医学科 衛生学公衆衛生学講座）

Publicly available data の重要性と活用の方向性—感染症研究の側面から—

山内 武紀（昭和医科大学医学部 衛生学公衆衛生学講座）

気象データを活用した健康リスク評価と公衆衛生への応用

橋爪 真弘（東京大学大学院医学系研究科 国際保健政策学）

◆シンポジウム 25

10月29日(水) 16:20～17:50 第7会場(映像ホール)

COVID-19 と保健所の記録映画「終わりの見えない闘い」が残したもの

座長：城所 敏英（公衆衛生保健所活動研究会）

工藤 恵子（帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科）

演者：保健所にカメラを据えて 10 か月—「終わりの見えない闘い」を製作して

宮崎 信恵（ピース・クリエイティブ株式会社）

住民が見える、住民から見える保健所

向山 晴子（世田谷保健所）

感染症まん延等による健康危機を見据えた保健所人材の育成と平時からの体制整備について

越前屋愛樹（一般財団法人 日本公衆衛生協会 健康危機管理支援部）

コロナ禍から働き始めた保健師の思い

大石 趙瑠（静岡県中部健康福祉センター(静岡県中部保健所)）

◆シンポジウム 26

10月30日(木) 8:30～10:00 第1会場(中ホール)

3 学会合同企画★保健師の本来業務を再確認！ ～所属や職種を越えた相互理解へ～

座長：五十嵐千代（東京工科大学医療保健学部看護学科/産業保健実践研究センター）

岡本 玲子（大阪大学大学院 医学系研究科保健学専攻）

演者：国内外のスタンダードにみる保健師の本来業務

蔭山 正子（大阪大学高等共創研究院）

行政保健師の立場から本来業務を再確認

新家 静（高槻市保健所）

産業保健師の立場から本来業務を再確認

村上 郁也（富士通株式会社 健康推進本部 産業保健統括部）

公衆衛生行政の立場から見た保健師の本来業務

藤内 修二（大分県東部保健所）

指定発言者：曾根 智史（国立保健医療科学院名誉院長）

平野美千代（札幌医科大学）

◆シンポジウム 27

10月30日(木) 11:20～12:50 第1会場(中ホール)

保健医療福祉調整本部における DHEAT と DMAT コーディネーションチームとの協働

座長：中里 栄介（佐賀県佐賀中部保健福祉事務所）
近藤 久禎（国立健康危機管理研究機構危機管理運営局 DMAT 事務局）
演者：令和元年佐賀豪雨災害における保健医療調整本部活動の報告と検証及び今後の展望について
中里 栄介（佐賀県佐賀中部保健所）
保健医療福祉調整本部の現在地
人見 嘉哲（北海道保健福祉部）
DHEAT と DMAT コーディネーションチームとの協働・連携が生み出す新たな可能性
高岡 誠子（一般財団法人 日本公衆衛生協会）
令和6年能登半島地震対応時における保健医療福祉調整本部の運用
是枝 大輔（国立健康危機管理研究機構 DMAT 事務局）

◆シンポジウム 28

10月30日(木) 14:30～16:00 第1会場(中ホール)

公衆衛生学分野におけるデータサイエンス技術の活用 ～特に AI や機械学習について～

座長：内田 満夫（群馬大学大学院医学系研究科数理データ科学講座）
桑原 恵介（横浜市立大学医学部公衆衛生学講座）
演者：機械学習を用いた生活習慣病リスクの可視化と個別化予防への可能性
大川 貴史（群馬大学大学院保健学研究科）
メンタルヘルス領域における生成 AI を含む人工知能 (AI) の研究利用
渡辺 和広（北里大学医学部公衆衛生学）
時系列データを用いた機械学習、AI、数理モデルによる将来予測に関する研究
山内 武紀（昭和医科大学医学部衛生学公衆衛生学講座）
研究における AI・機械学習の活用の課題と技術的展望
清水沙友里（横浜市立大学 データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻）

◆シンポジウム 29

10月30日(木) 16:10～17:40 第1会場(中ホール)

日本医学会連合 TEAM 事業『「いつまでも健康で美味しく食べる」ための、多学会連携による嚥下障害対策の普及活動』～在宅高齢者の「食べる力」を地域で支える：多職種連携の展望～

座長：三浦 宏子（北海道医療大学歯学部保健衛生学分野）
熊井 良彦（長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科）
演者：在宅認知症高齢者等の摂食嚥下障害と食事への支援
枝広あや子（地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所）
地域高齢者の食と栄養を支えるための食環境整備（配食サービス事業者等との連携）
諸岡 歩（兵庫県伊丹健康福祉事務所）
地域ケア会議における高齢者の「食べる力」を支援する多職種連携
原 修一（新潟医療福祉大学 言語聴覚学科）
高齢者嚥下障害の早期発見：高齢者施設における誤嚥検診の有用性
今泉 光雅（福島県立医科大学）
指定発言者：小坂 健（東北大学大学院歯学研究科）

◆シンポジウム 30

10月30日(木) 8:30~10:00 第2会場(交流ホール)

若手に伝えたい公衆衛生の実践

座長：宇田 英典（地域医療振興協会）

若林チヒロ（埼玉県立大学 健康開発学科 健康情報学専攻）

演者：実践からみた公衆衛生の責任と可能性

柳川 洋（日本川崎病研究センター）

人そして人の和を育て公衆衛生の発展につなげる教育

定金 敦子（島根大学医学部環境保健医学講座）

公衆衛生の発展への想いと公的データを活用した実践

松本 真欣（埼玉県立大学 健康開発学科 健康情報学専攻）

指定発言者：中村 好一（宇都宮市保健所）

ファシリテーター：大木いずみ（埼玉県立大学 健康開発学科 健康情報学専攻）

◆シンポジウム 31

10月30日(木) 10:10~11:40 第2会場(交流ホール)

孤独に寄り添う社会的処方やテクノロジーの可能性

座長：高田 礼子（聖マリアンナ医科大学予防医学教室）

藤田 卓仙（東京財団）

演者：社会的処方と暮らしの保健室

西 智弘（一般社団法人プラスケア）

「孤独対策に関する医療経済評価」

後藤 励（慶應義塾大学）

孤独に寄り添う社会的処方やテクノロジー

森 徳郎（医療法人社団木犀会 大多和医院）

ウェアラブルデバイスで孤独感などの心理状態を示すデジタルバイオマーカーを見出せるか？：前向き観察研究

泉 啓介（株式会社テックドクター）

指定発言者：藤田 卓仙（東京財団）

◆シンポジウム 32

10月30日(木) 14:50~16:20 第2会場(交流ホール)

感染症対策委員会企画 来るべき次のパンデミックにどう立ち向かうか

座長：金成由美子（福島県南保健所）

中島 一敏（大東文化大学スポーツ・健康科学部）

演者：グローバルな視点からのネクストパンデミックへの備え

押谷 仁（東北大学医学系研究科）

現場起点のパンデミック初動対応ーリスクアセスメントやFF100の実装から目指すこと

砂川 富正（国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 応用疫学研究センター）

子どもまんなかのパンデミック対策を考える

宮入 烈（浜松医科大学小児科学講座）

混乱、困惑、試行錯誤 ～コロナ禍報道の過ちを繰り返さないために

元村有希子（同志社大学生命医科学部）

◆シンポジウム 33

10月30日(木) 16:30~18:00 第2会場(交流ホール)

HPV ワクチンと接種後症状—安全性についての報道, 疫学, 裁判の視点からの論点

座長: 中村 好一 (宇都宮市保健所)

柿崎真沙子 (愛知医科大学医学部衛生学講座)

演者: 報道の在り方と問題点

岩永 直子 (フリーランス)

HPV ワクチンと接種後症状: 名古屋スタディの意味するもの

鈴木 貞夫 (名古屋市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学分野)

HPV ワクチンと接種後症状: 薬害裁判の現状と展望

鈴木エイト (ジャーナリスト (フリーランス))

指定発言者: 片野田耕太 (国立がん研究センター・がん対策研究所)

◆シンポジウム 34

10月30日(木) 10:00~11:30 第3会場(会議ホール)

へき地医療の新たな展望 ~へき地の現状と人口動態に基づく医療ニーズ分析から~

座長: 菖蒲川由郷 (新潟大学大学院・医歯学総合研究科十日町いきいきエイジング講座)

宮田 潤 (長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻 離島・へき地医療学講座)

演者: 無医地区の現状と再定義の検討

菖蒲川由郷 (新潟大学大学院医歯学総合研究科十日町いきいきエイジング講座)

へき地と非へき地で健康格差はあるのか?—歴史的推移を踏まえて

林 玲子 (国立社会保障・人口問題研究所)

厚生労働省へき地医療現況調査の分析と新たなへき地診療所・へき地医療拠点病院に対する調査

杉田 義博 (日光市民病院)

過疎地域における将来人口見通しと旧市町村別人口分析

小池 司朗 (国立社会保障・人口問題研究所)

◆シンポジウム 35

10月30日(木) 13:00~14:30 第3会場(会議ホール)

いま高齢者介護の現場で何が起きているか~持続可能な介護保険システムに向けて~

座長: 新開 省二 (女子栄養大学 栄養学部)

岸 恵美子 (東京医療保健大学 大学院看護学研究科)

演者: 仮題) 地域包括ケアの課題への白ゆりグループの取り組み

佐藤 文彦 (株式会社メディカルシャトー)

在宅介護・看護の現状と課題—高齢者を孤立させないサービスとは—

岸 恵美子 (東京医療保健大学大学院 看護学研究科)

高齢者施設における介護助手の導入は効果的か?: 全国調査データを用いた多面的検証

村山 洋史 (東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加とヘルシーエイジング研究チーム)

介護保険制度の持続可能性をめぐる課題

高野 龍昭 (東洋大学福祉社会デザイン学部)

指定発言者: 藤原 佳典 (東京都健康長寿医療センター研究所)

◆シンポジウム 36

10月30日(木) 14:40～16:10 第3会場(会議ホール)

中高年者における経済格差から社会的孤立の連鎖予防に向けて

座長：村山 陽（東京都健康長寿医療センター研究所）

長谷部雅美（聖学院大学）

演者：インフォーマル・フォーマルな支援の受領と関連要因：経済的階層差の検討

小林江里香（東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加とヘルシーエイジング研究チーム）

社会的孤立・困窮状態にある人に向き合う支援の現場から～コロナ特例貸付を通じて見えてきた課題

横田 恵里（社会福祉法人新宿区社会福祉協議会）

社会的孤立・困窮状態にある人に向き合う支援の現場から〈もやい〉交流事業での取り組み

松下 千夏（特定非営利活動法人自立生活サポートセンター・もやい）

孤立・困窮状態にある単身中高年者の援助要請が抑制される心理的プロセス

村山 陽（東京都健康長寿医療センター研究所）

ファシリテーター：元田 宏樹（聖学院大学）

山崎 幸子（文京学院大学）

◆シンポジウム 37

10月30日(木) 16:20～17:50 第3会場(会議ホール)

日本における社会的処方 of 最前線－厚労省モデル事業と地域の挑戦

座長：野村 恭子（秋田大学大学院 衛生学・公衆衛生学講座）

演者：モデル事業から見えてきた、日本に「ほしい」社会的処方の仕組み

近藤 尚己（京都大学）

養父市における社会的処方の取り組み

吉田 由佳（養父市社会的処方推進課）

横浜市における官民連携による社会的処方への挑戦

甲斐 裕子（公益財団法人 明治安田厚生事業団 体力医学研究所）

◆シンポジウム 38

10月30日(木) 9:00～10:30 第4会場(1001-2)

フィンランドの母子保健システム導入による社会実装の効果：児童虐待と孤独予防の方策

座長：江崎 治朗（厚生労働省）

横山 美江（大阪公立大学）

演者：担当保健師によるすべての子育て家族への継続支援システムを導入した保健師活動の実際

兼岩 美穂（島田市 健康づくり課）

島田市版ネウボラを利用する家族の変化：小児科医としての見解

山下 健一（ケン☆こどもクリニック）

フィンランドの母子保健システム導入による社会実装の効果

横山 美江（大阪公立大学）

指定発言者：西巻 英俊（中頓別町保健福祉課）

◆シンポジウム 39

10月30日(木) 10:40～12:10 第4会場(1001-2)

受動喫煙防止対策のいっそうの推進に向けて

座長：田淵 貴大（東北大学）

片岡 葵（神戸大学）

演者：受動喫煙と自由：迷惑から他者危害となった今どう考えるべきか

児玉 聡（京都大学大学院文学研究科）

喫煙と受動喫煙の健康影響—最新研究結果の紹介

高瀬 雅仁（東北メディカル・メガバンク機構）

改正健康増進法をさらにどう改正すべきか？

片野田耕太（国立がん研究センター）

日本公衆衛生学会における禁煙宣言と受動喫煙防止対策

松林 恵介（吹田市保健所）

◆シンポジウム 40

10月30日(木) 14:40～16:10 第4会場(1001-2)

大規模避難における公衆衛生対策：想定すべきリスクと備え・対策

座長：富尾 淳（国立保健医療科学院）

古屋 好美（ふるや健康危機管理研究所）

演者：大規模避難に伴う医療と介護の課題

高山 義浩（沖縄県立中部病院）

奄美群島における大規模避難を考える

渋谷 謙一（鹿児島県立大島病院）

大規模広域避難時における要配慮者対応に向けたアセスメントツールの提案

田治 明宏（広島大学大学院 医系科学研究科 公衆衛生学）

避難者の生活水準の確保とその課題

平尾 智広（香川大学医学部公衆衛生学）

指定発言者：和田 耕治（国立健康危機管理研究機構危機管理・運営局）

◆シンポジウム 41

10月30日(木) 16:20～17:50 第4会場(1001-2)

健康危機管理の人材育成：キャパシティビルディングとキャリアパス

座長：今中 雄一（京都大学 大学院医学研究科 ヘルスセキュリティセンター 健康危機管理システム学分野／社会健康医学系専攻 医療経済学分野）

近藤 久禎（国立健康危機管理研究機構（JIHS）／厚生労働省 DMAT 事務局）

演者：DMAT 事務局における災害等危機管理専門家養成コース（Crisis Management Training Program：CMTP）について

近藤 久禎（国立健康危機管理研究機構 DMAT 事務局）

健康危機管理の人材育成とキャリアパス—BHELP 標準コースによる人材育成の取組みについて—

石井美恵子（国際医療福祉大学大学院 災害医療分野／災害保健医療研究センター）

人ごとにさせない、産学官連携での健康危機管理。～DHEAT/IHEAT の育成～

藤田 利枝（全国保健所長会／久留米市保健所）

感染症危機管理専門家の育成と国立健康危機管理研究機構

野田 博之（厚生労働省健康・生活衛生局）

指定発言者：富尾 淳（国立保健医療科学院 健康危機管理研究部）

◆シンポジウム 42

10月30日(木) 9:40～11:10 第5会場(1001-1)

今こそ大切にしたい、日本の将来を担うこども達の育ちの礎「母子保健事業」

座長：越田 理恵（金沢市福祉健康局（兼）金沢市保健所）
小倉加恵子（鳥取県福祉保健部／子ども家庭部（兼）倉吉保健所）
演者：「こどもまんなか」を実現する母子保健活動
山縣然太郎（国立成育医療研究センター成育こどもシンクタンク）
母子保健データからみたこどもの現状と課題
杉浦 至郎（あいち小児保健医療総合センター）
「安心して産み、健やかに育ち育てる」を支援する
山下 典子（高槻市子ども未来部子ども家庭みまもりセンター子ども保健課）
教育相談臨床から母子保健を考える
熊谷有紀子（金沢市教育プラザ）

◆シンポジウム 43

10月30日(木) 13:10～14:40 第5会場(1001-1)

食事調査法の未来～国民健康・栄養調査の食事調査法はどのようにあるべきか

座長：佐々木 敏（東京大学）
演者：食事摂取基準の活用からみた食事調査法の在り方
佐々木 敏（東京大学）
食事調査の Quality by Design
中村美詠子（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 栄養疫学・政策研究センター）
国民健康・栄養調査における食事調査を未来型で考える-オンライン型食事調査の可能性-
松本 麻衣（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 栄養疫学・政策研究センター）

◆シンポジウム 44

10月30日(木) 14:50～16:20 第5会場(1001-1)

食環境整備に向けた産学官等連携の取組：現状と未来

座長：武見ゆかり（女子栄養大学）
岡田 知佳（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）
演者：産学官連携による「うま塩」プロジェクト
藤内 修二（大分県東部保健所）
産学官等連携で楽しく取り組む三重の食環境づくり～住むだけで健康になる“とこわか”の三重をめざして～
森田 昌浩（三重県医療保健部健康推進課）
ナッジを活用した食環境整備『ヘルシーコンビニプロジェクト』
川畑 輝子（公益社団法人 地域医療振興協会 地域医療研究所）
食環境整備推進のための産学官等連携共同研究プロジェクト
瀧本 秀美（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）

◆シンポジウム 45

10月30日(木) 8:50~10:20 第6会場(908)

今後のNCDs対策を考える

- 座長：郡山 千早（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 疫学・予防医学）
八谷 寛（名古屋大学大学院医学系研究科 国際保健医療学・公衆衛生学）
演者：「生活習慣病」の名称を再考し今後のNCDs対策を考える
水野 篤（聖路加国際病院 循環器内科）
多職種でのライフコースを通じた生活習慣支援：身体活動・運動を通じたNCDs予防
宮地 元彦（早稲田大学）
初等中等教育における新規科目「ヘルスサイエンス」の導入の提案
片山 豪（高崎健康福祉大学）

◆シンポジウム 46

10月30日(木) 10:40~12:10 第6会場(908)

世界の疾病負荷研究（Global Burden of Disease）入門：エビデンスで導く公衆衛生政策と実践

- 座長：武林 亨（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学；慶應義塾大学大学院医学研究科健康マネジメント研究科（公衆衛生学位プログラム））
演者：The Trajectory and Innovations of the Global Burden of Disease (GBD) Study
Mohsen Naghavi (Institute for Health Metrics and Evaluation, University of Washington)
データ駆動型政策の基盤：GBDによる日本47都道府県の疾病負荷推計
野村 周平（慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート）
GBDの政策応用：UHC/PHC実装への橋渡し
坂元 晴香（聖路加国際大学大学院公衆衛生学研究科）

◆シンポジウム 47

10月30日(木) 13:00~14:30 第6会場(908)

健康危機管理の研究展開：備え・緊急対応・避難生活支援

- 座長：今中 雄一（京都大学 大学院医学研究科 ヘルスセキュリティセンター 健康危機管理システム学分野／社会健康医学系専攻 医療経済学分野）
茅野 龍馬（WHO 健康開発総合研究センター）
演者：平均寿命と災害リスク：レジリエント社会構築のための研究最前線
江川 新一（東北大学 災害医療国際協力学分野）
看護研究と健康・災害・健康危機管理の交差
神原 咲子（神戸市看護大学）

茅野 龍馬（WHO 健康開発総合研究センター）
災害救護活動における学術と実践の連携
丸山 嘉一（日本赤十字看護大学附属災害救護研究所）

◆シンポジウム 48

10月30日(木) 16:00~17:30 第6会場(908)

性別役割分業規範が健康にどのような影響を与えているのか —ジェンダーの健康影響

座長：本庄かおり（大阪医科大学）

大西真由美（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科）

演者：日本社会における社会的性差（ジェンダー）と性別役割分業規範

本庄かおり（大阪医科大学）

地域のジェンダー規範が高齢者の心の健康に及ぼす影響

金森万里子（京都大学 人と社会の未来研究院）

女性に求められる家庭内での役割と健康の関連

鈴木 有佳（慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室）

父親の産後うつ予防と父親の“家庭進出”の支援

竹原 健二（国立成育医療研究センター研究所政策科学研究部）

◆シンポジウム 49

10月30日(木) 8:40~10:10 第7会場(映像ホール)

健康危機管理人材の卒前教育における保健師・看護師・医師・福祉職の相互理解

座長：中瀬 克己（吉備国際大学）

神原 咲子（神戸市看護大学）

演者：災害看護教育の変遷とコンピテンシーにおける多職種相互理解

神原 咲子（神戸市看護大学）

防災・減災における保健師の役割及び多職種相互理解に関する卒前教育

畠山 典子（国立保健医療科学院 健康危機管理研究部）

多機関連携に着目した健康危機管理人材の卒前教育での相互理解

久保 達彦（広島大学 大学院医系科学研究科 公衆衛生学）

健康危機管理と社会福祉専門職、卒前教育と多職種相互理解の必要性

北川 慶子（佐賀大学）

◆シンポジウム 50

10月30日(木) 10:40~12:10 第7会場(映像ホール)

モニタリングレポート委員会による「賛否の分かれる公衆衛生対策に関するディベート」

座長：尾崎 米厚（鳥取大学）

郡山 千早（鹿児島大学）

演者：医療従事者の情報発信の規制について：賛成、反対の立場から

高橋美保子（埼玉医科大学医学部社会医学）

弓屋 結（広島大学 大学院医系科学研究科 公衆衛生学）

透析治療における保険診療と同等の自己負担について：賛成、反対の立場から

横川 博英（順天堂大学医学部総合診療科学講座）

吉田 都美（筑波大学医学医療系）

◆シンポジウム 51

10月30日(木) 15:00~16:30 第7会場(映像ホール)

第4期から導入されたアウトカム評価の達成に効果的な特定保健指導法のエビデンス

座長：月野木ルミ（東京科学大学保健衛生学研究科 公衆衛生看護学分野）

岡村 智教（慶應義塾大学医学部 衛生学公衆衛生学）

演者：第4期特定健康診査・特定保健指導の概要と現状

後藤 友美（厚生労働省健康・生活衛生局健康課保健指導室）

特定保健指導のアウトカム評価達成と対象者特性・生活習慣改善目標の同定：全国健康保険協会データの解析

安齋 達彦（東京科学大学 総合研究院 M&D データ科学センター 生物統計学分野）

保健師・管理栄養士における第4期特定保健指導のアウトカム評価達成に効果的な保健指導法の検討

坂口 景子（淑徳大学看護栄養学部）

指定発言者：渡井いずみ（浜松医科大学 医学部看護学科 地域看護学講座）

◆シンポジウム 52

10月31日(金) 8:50~10:20 第1会場(中ホール)

地域・職域における新たな高血圧対策：日本高血圧学会からの提案

座長：岡村 智教（慶應義塾大学衛生学公衆衛生学）

武見ゆかり（女子栄養大学）

演者：『「血圧朝活！」全国キャンペーンの提案」

荻尾 七臣（自治医科大学内科学講座循環器内科学部門）

新しい高血圧ガイドライン（JSH2025）の改訂のポイント

大屋 祐輔（沖縄県北部医療財団）

尿ナトリウム比の活用の提案：コンセンサスステートメント

三浦 克之（滋賀医科大学）

「高血圧ゼロのまち」へのお誘い

大石 充（鹿児島大学 心臓血管・高血圧内科学）

◆シンポジウム 53

10月31日(金) 10:30~12:00 第1会場(中ホール)

複数災害に備えたフェーズフリーの広域災害対応

座長：奥田 博子（国立保健医療科学院）

大森 純子（聖路加国際大学）

演者：静岡県における現在までの防災対策の取組について

岩田 孝仁（静岡大学・防災総合センター）

静岡県における現在の防災対策について

油井 里美（静岡県）

我が国における火山噴火災害対策等の取組について

五十嵐洋輔（内閣府（防災担当））

災害時の被災者の健康支援活動の到達点と課題

高鳥毛敏雄（関西大学社会安全学部・社会安全研究科）

◆シンポジウム 54

10月31日(金) 13:40～15:10 第1会場(中ホール)

公的ビッグデータの現状とこれから

座長：今村 知明（奈良県立医科大学）

明神 大也（浜松医科大学）

演者：NDBにおける提供の迅速化や項目拡大など近年の取り組みと展望

小西 孝明（国立がん研究センターがん対策研究所医療政策部）

介護DBの意義—治し支える医療のために

田宮菜奈子（筑波大学 医学医療系 ヘルスサービスリサーチ分野）

指定難病患者データベース・小児慢性特定疾病データベース利用申請の実際と期待される新たな知見

森 由希子（京都大学医学部附属病院 医療情報企画部）

医療等情報の二次利用に向けた政府の取組

木下 栄作（厚生労働省医政局医療情報担当参事官室）

◆シンポジウム 55

10月31日(金) 15:20～16:50 第1会場(中ホール)

EBPMに寄与するエビデンスづくりー日本老年学的評価研究（JAGES）25年の歩みと教訓

座長：近藤 克則（千葉大学）

ローゼンバーグ恵美（世界保健機関（WHO）・健康開発総合研究センター（神戸センター））

演者：見えづらいことの「見える化」への限りなき挑戦

ローゼンバーグ恵美（世界保健機関健康開発総合研究センター（WHO 神戸センター））

国の介護予防施策の変遷と自治体支援の重要性

長嶺由衣子（厚生労働省 前・老健局老人保健課（現・医政局医療情報担当参事官室））

ヘルスプロモーションを広げる多様な健康の社会的決定要因の実証

相田 潤（東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 歯科公衆衛生学分野）

介護予防分野でのPFS/SIBを活用した産学共創研究の可能性

斉藤 雅茂（日本福祉大学）

◆シンポジウム 56

10月31日(金) 8:30～10:00 第2会場(交流ホール)

日本入国前結核健診の実際と今後の展望 ～ベトナムでの健診医療機関の視察を踏まえて～

座長：前田 和成（山口県健康福祉部健康増進課）

李 祥任（（公財）結核予防会結核研究所・臨床疫学部、入国前結核スクリーニング精度管理センター）

演者：入国前結核スクリーニング導入について

亀谷 航平（厚生労働省 健康・生活衛生局 感染症対策部 感染症対策課 課長補佐）

日本入国前結核健診開始後の国内における在日外国人結核患者対応の課題

大角 晃弘（（公財）結核予防会結核研究所 臨床疫学部 入国前結核スクリーニング精度管理センター）

東京都の結核 ～外国人結核登録の現状から～

長嶺 路子（東京都板橋区保健所）

ベトナムにおける結核対策と結核健診医療機関を視察して

須藤 章（兵庫県伊丹健康福祉事務所）

◆シンポジウム 57

10月31日(金) 10:10～11:40 第2会場(交流ホール)

JSPH、JSTB 学会共同企画シンポジウム：飛び出せ日本—途上国の公衆衛生と結核対策

座長：前田 秀雄（公益財団法人結核予防会）

長嶺 路子（板橋区保健所）

演者：結核対策をめぐるグローバルスタンダードとのギャップ—駆け出し感染症医が各国のフィールドで学んだこと—

永田 由佳（結核予防会・結核研究所）

ウズベキスタンで考えたこと

井上 守江（荒川区保健所健康推進課保健相談担当）

国際保健のキャリアパス～これから海外の現場に出たい人を後押しするためには

町田 宗仁（国立保健医療科学院）

私と感染症の歴史—WHOでの経験を通して

尾身 茂（公益財団法人結核予防会）

指定発言者：小野崎郁史（公益財団法人結核予防会）

◆シンポジウム 58

10月31日(金) 13:20～14:50 第2会場(交流ホール)

がん生存率の国際共同研究から考える日本の現状とこれからのがん対策、がん医療

座長：松田 智大（国立がん研究センターがん対策研究所 がん登録センター）

大木いずみ（埼玉県立大学 健康開発学科 健康情報学専攻）

演者：がん生存率の国際共同研究 CONCORD-3 Study の概要とがん登録データを用いた国際共同研究の今後の課題

杉山 裕美（放射線影響研究所疫学部）

日本における膵臓がんと肝臓がんの純生存率の推移と国際連携への示唆

西尾麻里沙（国立がん研究センター がん対策研究所予防研究部）

日本における女性に特有のがんの純生存率の推移とがん対策への示唆

渡邊 要（神奈川県立がんセンター臨床研究所 がん予防・情報学部）

小児がん生存率の国際比較から考える日本の小児がん医療における今後の課題

中田 佳世（大阪国際がんセンター がん対策センター 政策情報部）

指定発言者：西野 善一（日本がん登録協議会（金沢医科大学医学部公衆衛生学））

◆シンポジウム 59

10月31日(金) 15:00～16:30 第2会場(交流ホール)

小児の睡眠 2025（睡眠・休養に関する委員会企画）

座長：谷川 武（順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学）

兼板 佳孝（日本大学医学部社会医学系公衆衛生学）

演者：乳幼児・学童期の睡眠: 将来の公衆衛生のために

志村 哲祥（東京医科大学睡眠学講座）

思春期における睡眠と休養に関する疫学研究

大塚雄一郎（日本大学医学部社会医学系公衆衛生学分野）

小児の睡眠啓発の歴史と展望

星野 恭子（昌仁醫修会 瀬川記念小児神経学クリニック）

PVT を用いた小児のスリープヘルスの可視化

植田 結人（順天堂大学医学部衛生学・公衆衛生学講座）

◆シンポジウム 60

10月31日(金) 9:20～10:50 第3会場(会議ホール)

エビデンスに基づく介護保険における保険者機能強化の推進(国立保健医療科学院企画)

座長: 大野賀政昭(国立保健医療科学院)

森山 葉子(国立保健医療科学院)

演者: 介護保険における保険者機能の特徴と評価

筒井 孝子(公立大学法人埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科・研究開発センター)

保険者機能強化の推進に求められる自治体職員の体制や取り組みー研修の企画・運営経験を通してー
大野賀政昭(国立保健医療科学院医療・福祉サービス研究部)

保険者機能強化にむけたロジックモデルとデータ活用ー実効的なPDCAサイクルによる事業展開の推進ー

松本 佳子(一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構)

都道府県による介護保険者機能強化に向けた計画評価等にかかる市町村支援の実践

小林 志伸(長野県健康福祉部健康福祉政策課)

◆シンポジウム 61

10月31日(金) 11:00～12:30 第3会場(会議ホール)

公衆衛生と倫理・公衆衛生の倫理: はじめの一步とこれからの歩みのために

座長: 井上 悠輔(京都大学)

井上まり子(帝京大学)

演者: 公衆衛生と倫理の接点

中澤 栄輔(東京大学)

公衆衛生と倫理のパースペクティブ

井上 悠輔(京都大学・大学院医学研究科・医療倫理学分野)

公衆衛生と倫理をめぐる教育と課題

井上まり子(帝京大学大学院公衆衛生学研究科)

指定発言者: 長谷川 学(厚生労働省)

◆シンポジウム 62

10月31日(金) 14:10～15:40 第3会場(会議ホール)

日本の健康危機管理の現状と展望ー国立健康危機管理研究機構(JIHS)の創立にあたってー

座長: 藤田 利枝(全国保健所長会)

磯 博康(国立健康危機管理研究機構 グローバルヘルス政策研究センター長)

演者: 厚生労働省における感染症危機管理の動向

鷺見 学(厚生労働省)

内閣感染症危機管理統括庁設立の経緯とこれから

眞鍋 馨(内閣感染症危機管理統括庁 審議官)

地方自治体における取り組みと今後に向けて(災害時や感染症等の対応への支援の期待と共働)

家保 英隆(全国衛生部長会/高知県庁)

国立健康危機管理研究機構(JIHS)での取り組み

國土 典宏(国立健康危機管理研究機構)

指定発言者: 藤田 利枝(全国保健所長会)

◆シンポジウム 63

10月31日(金) 9:00～10:30 第4会場(1001-2)

健康日本21(第三次)と地域・職域連携推進 ～最新情報と今後の方向性～

座長：都筑 千景(大阪公立大学大学院)

藤本 優子(九州看護福祉大学)

演者：健康日本21(第三次)と地域・職域連携～活動の進展と課題

都筑 千景(大阪公立大学大学院看護学研究科)

地域・職域連携のための健康課題分析～全国二次医療圏別主要死因別 SMR

横山 徹爾(国立保健医療科学院生涯健康研究部)

市区町村における地域・職域連携推進活動の実態

渡井いずみ(浜松医科大学)

地域・職域連携推進事業における ICT 活用の実態とチェックリストの開発

尾崎伊都子(名古屋市立大学大学院看護学研究科)

◆シンポジウム 64

10月31日(金) 10:40～12:10 第4会場(1001-2)

高齢期就労の可能性を考える

座長：村山 洋史(東京都健康長寿医療センター研究所)

渡辺修一郎(桜美林大学)

演者：高齢期就労の政策的意義と健康影響

野藤 悠(東京都健康長寿医療センター研究所)

シルバー人材センターの健康政策面への貢献

石橋 智昭(公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団)

高齢者がいつまでも活躍できるテクノロジーを活用した就労環境の創出ーロボットを活用した遠隔就労ー

須藤 智(静岡大学 グローバル共創科学部)

高齢者・軽度認知障害者の就労的活動の作業分析を行なって

小川 敬之(京都橘大学)

指定発言者：藤原 佳典(東京都健康長寿医療センター研究所)

◆シンポジウム 65

10月31日(金) 13:40～15:10 第4会場(1001-2)

地域包括ケアシステム構築のための多職種連携～薬剤師×地域をつなぐ協働の実践～

座長：阿部 真也(株式会社ツルハ 調剤運営本部 薬事教育部)

戸張 裕子(東京薬科大学薬学部)

演者：地域包括ケアシステムへの薬剤師の関わりと多職種連携

新井 健央(静岡県健康福祉部生活衛生局薬事課)

地域医療における薬剤師の役割とオンライン服薬指導の可能性

尾関佳代子(愛知学院大学 薬学部 実践薬学講座)

ドラッグストア併設薬局における患者への栄養指導と薬剤師連携の実例

水野 優(株式会社 杏林堂薬局)

地域住民の健康支援のための多職種連携を中心とした薬局機能強化の実践

渡邊 慶剛(株式会社ライフ 豊臣調剤薬局)

◆シンポジウム 66

10月31日(金) 15:20～16:50 第4会場(1001-2)

多角的アプローチで臨むフレイル予防

座長：藤原 佳典（東京都健康長寿医療センター研究所 東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター）
森田 明美（鳥取大学医学部 社会医学講座 健康政策医学分野）

演者：地域でのフレイルの現状と予防対策の問題

天野 宏紀（鳥取大学医学部社会医学講座健康政策医学分野）

栄養・食生活からのアプローチ

中村美詠子（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所栄養疫学・政策研究センター）

フレイルとロコモの実態と予後：地域住民コホートROAD スタディより

吉村 典子（東京大学医学部附属病院 22 世紀医療センター ロコモ予防学講座）

社会的側面からみたフレイル予防のアプローチ

藤原 佳典（東京都健康長寿医療センター研究所）

◆シンポジウム 67

10月31日(金) 9:10～10:40 第5会場(1001-1)

5 歳児健診事業化の公衆衛生学的検討：モニタリング・レポート委員会分野横断企画

座長：北野 尚美（和歌山県立医科大学）

鈴木 孝太（愛知医科大学）

演者：ADHD 早期発見の重要性: Disruptive Behavior Disorder 破壊的行動障害マーチとの関連から

吉益 光一（神戸女学院大学心理学部心理学科）

発達が気になる子どもと家庭を地域でみるために、どのようなしくみが必要か

福永 一郎（高知県健康政策部）

発達が気になる子どもと家族を地域で支える－ESSENCE チームによる地域支援－

野々宮京子（高知県立療育福祉センター）

こどもの成長発達を保障する地域システムづくり：保健と福祉・教育の連携・協働強化を具現化した 5 歳児健診

北野 尚美（和歌山県立医科大学医学部／健康管理センター）

指定発言者：小倉加恵子（鳥取県福祉保健部／子ども家庭部、倉吉保健所）

中島 正夫（椋山女学園大学）

◆シンポジウム 68

10月31日(金) 10:50～12:20 第5会場(1001-1)

保健行政が地域と協働し進めるプレコンセプションケア ～母子・思春期保健、感染症対策等を活用した事例～

座長：中澤 智（神奈川県横浜市 泉区こども家庭支援課）

児玉 知子（国立保健医療科学院）

演者：保健行政・学校・地域と協働し進めてきたプレコンセプションケアの実践

渡會 睦子（東京医療保健大学 医療保健学部）

乳幼児期から行う性教育とプレコンセプションケア

佐藤沙也果（仙台市健康福祉局保険高齢部介護事業支援課（仙台市泉区保健福祉センター管理課））

嬰兒殺事例を発端にした「生きる力を育む生（性）教育」を用いたプレコンセプションケア

松尾まゆら（須崎市役所 健康推進課）

福島県におけるプレコンセプションケアの取り組みについて

本多つよし（いわき市医療センター）

◆シンポジウム 69

10月31日(金) 14:10～15:40 第5会場(1001-1)

エビデンスに基づくメンタルヘルスと健康経営の推進：認知行動療法アプリの社会実装

座長：中山 健夫（京都大学大学院）

演者：健康経営と産学連携によるヘルスケアサービス開発の推進

佐藤 大輔（経済産業省）

レジリエンスは基本的人権だ：スマートフォン認知行動療法がもたらす世界

古川 壽亮（京都大学 成長戦略本部）

働く人々の健康と健康経営をつなぐ：PHRの可能性

野本 有香（株式会社JMDC）

◆シンポジウム 70

10月31日(金) 8:50～10:20 第6会場(908)

グローバルレベルにおける保健医療サービス・カバレッジ指標の今後の展望と課題

座長：大澤 絵里（国立保健医療科学院）

五十嵐久美子（国立保健医療科学院）

演者：ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現に向けた日本の貢献

井筒 将斗（厚生労働省大臣官房国際課）

既存のUHC サービスカバレッジインデックスの傾向とその課題点の分析

中西 康裕（国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部）

UHC 指標と口腔保健指標との統合に関する国際的動向

三浦 宏子（北海道医療大学歯学部保健衛生学分野）

気候変動対応とHTAで築く持続可能なUHC

坂元 晴香（聖路加国際大学）

◆シンポジウム 71

10月31日(金) 10:30～12:00 第6会場(908)

社会医学系専門医制度をいかに医療制度に組み込むか？

座長：和田 裕雄（社会医学系専門医協会理事・順天堂大学）

演者：

松本 晴樹（文部科学省 高等教育局医学教育課 企画官）

地域医療推進施策としての社会医学領域の医師の確保・育成の可能性

西嶋 康浩（厚生労働省医政局地域医療計画課）

健康危機管理の視点からの社会医学領域の医師の確保・育成の可能性について

荒木 裕人（厚生労働省厚生科学課）

地域保健における社会医学領域の医師の確保・育成の課題

入江ふじこ（茨城県保健医療部）

指定発言者：今中 雄一（社会医学系専門医協会理事長・京都大学）

◆シンポジウム 72

10月31日(金) 13:00~14:30 第6会場(908)

短期集中予防サービス(通所型サービスC)の効果と普及促進にむけての提言

座長: 齊藤 雅茂(日本福祉大学)

演者: サービス・活動Cへの期待と全国普及に向けた課題

齋藤 陽子(厚生労働省老健局老人保健課)

通所型サービスCを軸とした自立支援に資する地域づくり

佐藤 孝臣(株式会社アイトラック)

大分県竹田市における通所型サービスCを軸とした入口・出口戦略~自立支援に資する地域づくり~

中里 裕美(竹田市役所 保険健康課)

通所型サービスCと介護給付費適正化の関連—3年間の追跡研究より—

渡邊 良太(愛知淑徳大学 健康医療科学部)

◆シンポジウム 73

10月31日(金) 14:40~16:10 第6会場(908)

人獣共通感染症、輸入感染症について考える(モニタリングリーポート委員会感染症等グループ報告)

座長: 城所 敏英(モニタリングリーポート委員会感染症グループ)

伊東 則彦(北海道 名寄保健所(兼)紋別保健所)

演者: 外国生まれ結核患者の疫学情報: 2025年結核登録者情報調査年報から

大角 晃弘((公財)結核予防会結核研究所 臨床疫学部 入国前結核スクリーニング精度管理センター)

北海道のエキノコックス対策と最近の話題

孝口 裕一(北海道立衛生研究所感染症部医動物グループ)

エゾウイルス感染症と様々な新興ダニ媒介性ブニヤウイルス感染症について

松野 啓太(北海道大学 人獣共通感染症国際共同研究所)

指定発言者: 緒方 剛(茨城県潮来保健所)

ファシリテーター: 中村 宏(中村脳神経内科クリニック)

中里 栄介(佐賀県 佐賀中部保健所)

◆シンポジウム 74

10月31日(金) 10:50~12:20 第7会場(映像ホール)

食環境づくりの推進を通じた減塩の取組がもたらす公衆衛生学的・医療経済学的効果

座長: 三浦 克之(滋賀医科大学)

杉山 雄大(国立健康危機管理研究機構)

演者: 食環境づくりの推進を通じた減塩の取組がもたらす公衆衛生学的・医療経済学的効果

池田 奈由(国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 栄養疫学・政策研究センター)

事業者向け減塩ガイド作成に向けて: スコーピングレビュー

檜野いく子(甲子園大学 栄養学部・栄養学科)

食品関連事業者の減塩目標設定と取組に関するレビューと事業者向け支援ガイドの作成

山口 美輪(立命館大学 食マネジメント学部)

減塩の公衆衛生学的・医療経済学的効果に関する都道府県版シミュレーションモデル

西 信雄(聖路加国際大学大学院公衆衛生学研究科)

◆シンポジウム 75

10月31日(金) 13:10～14:40 第7会場(映像ホール)

全国自治体の有効的な自死対策の取り組み事例

座長：竹島 正(大正大学地域構想研究所)

佐々木那津(東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野)

演者：足立区こころといのちの相談支援事業 ～これまでの取り組みと今後の展望～

馬場 優子(足立区衛生部)

川崎市の自殺対策について

塚田 和広(川崎市役所)

学校コミュニティへの自殺対策

二宮 貴至(浜松市精神保健福祉センター)

指定発言者：小出 直史(大阪大学感染症総合教育研究拠点(CiDER) 科学情報・公共政策部門 行動経済学ユニット)

◆シンポジウム 76

10月31日(金) 14:50～16:20 第7会場(映像ホール)

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの展望～ひきこもり・自殺・依存症対策から

座長：辻本 哲士(滋賀県立精神保健福祉センター)

伊東千絵子(奈良県精神保健福祉センター)

演者：「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム(にも包括)」の理念と体制構築に向けた取り組みについて

伊東千絵子(奈良県精神保健福祉センター)

ひきこもり支援からみた「にも包括」～統合失調症モデルを見直す。理解・資源なき『自律』に意味はあるか～

原田 豊(鳥取県立精神保健福祉センター)

自殺ハイリスク者に対する包括的支援について

二宮 貴至(浜松市精神保健福祉センター)

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム(依存症：特に薬物依存症に関連して)

藤城 聡(愛知県精神保健福祉センター)

指定発言者：辻本 哲士(滋賀県立精神保健福祉センター)

◆オンデマンド講演 1

死因究明の情報を公衆衛生に活かす：高温環境下死亡、浴槽内死亡を例として

座長：竹之内直人((医)順風会健診センター)

演者：吉田 謙一(大阪府監察医事務所)

指定発言者：四宮 博人(愛媛県立衛生環境研究所)

◆オンデマンドシンポジウム 1

当事者と共につくる共創ウェルビーイング：支え合うコミュニティ・エンパワメント

座長：安梅 勅江(筑波大学)

演者：共創ウェルビーイング尺度開発と拠点づくりへの実装

松本 宗賢(令和健康科学大学看護学部)

高齢者運動支援と地域共創ウェルビーイング

木下 弘(飛鳥村役場)

住民と行政が共につくる心豊かで持続可能な地域コミュニティ

渡邊多恵子(淑徳大学)

インクルーシブ保育実践と共創ウェルビーイング

新山 妙子(社会福祉法人路交館)

◆オンデマンドシンポジウム 2

疫学研究から考える災害後の自殺対策のグッド・プラクティスとは？

座長：前田 正治（福島県精神保健福祉センター）

大類 真嗣（東北大学災害科学国際研究所災害公衆衛生学分野）

演者：「孤立」とうつ病症状との関連から見た被災地での「孤立」の対策

事崎 由佳（岩手医科大学医学部衛生学公衆衛生学講座）

原発事故避難指示区域住民における自殺発生率と関連要因：福島県「県民健康調査」

竹林 由武（福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座）

被災者の自殺死亡者のリスクの検討と宮城県沿岸部の自殺死亡率の推移から見たアウトリーチの効果

大類 真嗣（東北大学災害科学国際研究所災害公衆衛生学分野）

福島被災者に対する自殺予防の試み：アルコール問題に焦点を当てたポピュレーション・アプローチ

前田 正治（福島県精神保健福祉センター）

◆オンデマンドシンポジウム 3

日本の HPV ワクチン接種状況と男性接種の効果についての多角的検証

座長：片山佳代子（郡馬大学／神奈川県立がんセンター臨床研究所）

金村 政輝（宮城県立がんセンター研究所）

演者：増加する中咽頭がん-HPV ワクチンの男性接種に期待すること-

川北 大介（名古屋市立大学大学院耳鼻咽喉・頭頸部外科）

HPV ワクチン男子定期接種の効果予測と費用対効果の検証

池田さやか（大阪大学）

数理的側面から考える HPV ワクチン接種の男性接種の費用対効果

阪口 昌彦（高知大学）

HPV ワクチンの最新の接種状況と期待される効果

八木 麻未（和歌山県立医科大学）

指定発言者：上田 豊（大阪大学大学院医学系研究科 産科婦人科学教室）

◆オンデマンドシンポジウム 4

アウトドア・ヘルスサイエンス —屋外時間と健康のバランスを考える—

座長：西脇 祐司（東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野）

川崎 良（大阪大学医学部公衆衛生学）

演者：屋外時間の疫学研究

西脇 祐司（東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野）

屋外時間と眼科疾患

羽入田明子（慶應義塾大学医学部眼科学教室）

若者の朝の起床困難（起立性調節障害・睡眠相後退症候群）への視交叉上核を介した新規の薬物治療

神林 崇（筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構）

Smartphone を用いた屋外・屋内判定アプリの開発

衛藤 憲人（東海大学工学部）

◆オンデマンドシンポジウム 5

全国の行政保健師が GIS を活用できる未来～行政保健師が QGIS に出会った～

座長：堀池 諒（奈良県立医科大学医学部看護学科）
演者：NHAMs（ニャムズ）作成への道～新システムを生んだ令和元年東日本台風から学んだ教訓～
飛田 暢祐（埼玉県熊谷保健所）
災害対応力強化を目指した GIS 活用の試み：葛飾区における IP 無線設置先の可視化
吉田 佳世（葛飾区健康部新小岩保健センター）
保健活動における GIS の活用に向けて～保健師人材育成を 担当する立場から～
瀧口 知津（奈良県福祉保険部医療政策局健康推進課）
GIS と新任保健師～出会いとこれから～
松本 若菜（大阪府堺市東区役所東保健福祉総合センター東保健センター）

◆オンデマンドシンポジウム 6

交通と健康：エビデンスに基づく政策

座長：富尾 淳（国立保健医療科学院）
市川 政雄（筑波大学）
演者：交通と健康の概説
稲田 晴彦（東京大学医学系研究科公衆衛生学分野）
高齢運転者の交通安全政策と生活の質
小菅 英恵（（公財）交通事故総合分析センター）
アメリカにおける 10 代の致死的交通事故と携帯電話使用法
朱 墨涛（Nationwide Children's Hospital, USA）

◆オンデマンドシンポジウム 7

災害時に備える身体活動・運動を中心とした健康づくり、地域づくり

座長：篠田 邦彦（新潟大学名誉教授／身体運動研究会篠田塾）
演者：身体活動・運動を推進する環境整備：防災体力に着目して
菊池 宏幸（東京医科大学公衆衛生学分野）
災害環境と運動指導—被災地環境を想定した運動指導—
篠田 邦彦（新潟大学名誉教授／身体運動研究会篠田塾）
自治体における高齢者支援制度を活用した健康づくり—東北地域の例を中心に—
杉村 嘉邦（弘前大学大学院医学研究科社会医学講座／（株）現代けんこう出版）
健康成人におけるデジタル技術・デバイスを用いた身体活動・座位行動・体重への効果
野村 恭子（秋田大学医学部衛生学公衆衛生学）

◆オンデマンドシンポジウム 8

地域のソーシャルキャピタル醸成推進のまちづくり

座長：眞崎 直子（西南女学院大学）
田中 貴子（聖マリア学院大学）
演者：サロン夢あじなの 10 年の取り組みとこれから
松井美佐子（サロン夢あじな）
地域におけるソーシャルキャピタル醸成推進のために世代を超えた取り組みの経緯
眞崎 直子（西南女学院大学）
住民中心型の地域づくりの後方支援—メンタルヘルスの観点から—
竹島 正（大正大学地域構想研究所）

◆オンデマンドシンポジウム 9

自然と歩いて暮らせる健幸まちづくりにおける公共交通政策の重要性

座長：大久保一郎（茅ヶ崎市保健所）

久野 譜也（筑波大学大学院人間総合科学学術院／内閣府 SIP プログラムディレクター）

演者：人が自然と歩いてしまう環境とは

塚尾 晶子（つくばウエルネスリサーチ）

高齢化の進行・高止まりが見込まれる今後における多摩市の健幸まちづくり～外出促進と移動手段の観点から～

阿部 裕行（東京都多摩市長）

なぜ、公共交通政策が健幸まちづくりの推進に必要なのか

谷口 綾子（筑波大学）

時間消費機能を持つモビリティハブはコミュニティの再生に貢献する

安藤 章（日建設計総合研究所）

◆オンデマンドシンポジウム 10

女性における健康課題の解決策を考えるーなぜ運動・スポーツが女性・健康無関心層対策の一つになるのかー

座長：大澤 絵里（国立保健医療科学院 公衆衛生政策研究部）

久野 譜也（筑波大学大学院 人間総合科学学術院／内閣府 SIP プログラムディレクター）

演者：都市施策と健康施策を融合したスマートウエルネスシティ推進プラン

菅原 文仁（埼玉県戸田市長）

女性の Well-being 向上に向けた運動療法の提案 一葉に頼らない究極の予防医療ー

北出 真理（順天堂大学産婦人科学講座）

女性を核とした Well-being 経営と健幸との関係

塚尾 晶子（つくばウエルネスリサーチ）

女性の運動・スポーツ実施の現状と今後の方向性

中村 宇一（スポーツ庁健康スポーツ課）

◆オンデマンドシンポジウム 11

地域共生社会・地域包括ケアの取組報告と課題について（MR 委員会障がい・難病 G）

座長：谷掛 千里（高槻市健康福祉部保健所）

大冢賀政昭（国立保健医療科学院医療・福祉サービス研究部）

演者：地域包括ケア、地域共生社会の経過について

鈴木 仁一（前相模原市保健所）

長野県内保健福祉事務所による医療的ケア児支援に関する取組

長瀬 有紀（長野県松本保健福祉事務所（兼）大町保健福祉事務所）

インフォーマルな難病支援活動の意義 ー静岡難病ケア市民ネットワークの活動を通して見えることー

石垣 泰則（特定非営利活動法人 静岡難病ケア市民ネットワーク／コーラルクリニック）

誰もが関わるメンタルヘルス支援のあり方ー精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業を通じて

内野 敬（東邦大学医学部 社会実装精神医学講座／同 精神神経医学講座）

指定発言者：亀井 智泉（長野県医療的ケア児等支援センター）

◆オンデマンドシンポジウム 12

肺がん検診の再評価

座長：濱島ちさと（帝京大学）

中山 富雄（国立がん研究センター）

演者：肺がん罹患率・死亡率とハイリスク者の推移

細野 覚代（国立がん研究センターがん対策研究所 検診研究部）

肺がん検診の再評価：胸部 X 線検診のエビデンス

濱島ちさと（帝京大学）

低線量 CT 検診のエビデンス

寺澤 晃彦（藤田医科大学医学部救急医学・総合内科学講座）

低線量 CT 肺がん検診導入への実務的課題

中山 富雄（国立がん研究センターがん対策研究所検診研究部）

◆オンデマンドシンポジウム 13

新生児訪問指導と乳児家庭全戸訪問事業の質の保証と標準化に向けた課題と展望

座長：吉岡 京子（東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻地域看護学・公衆衛生看護学分野）

帯包エリカ（国立成育医療研究センター 社会医学研究部）

演者：妊娠期の関係性づくりと効果的な新生児訪問・乳児家庭全戸訪問を考える

佐藤 拓代（公益社団法人母子保健推進会議）

公共政策から見る事業の質保証

真山 達志（同志社大学）

母子保健におけるリスクアセスメントツール導入の意義と課題

帯包エリカ（国立成育医療研究センター 社会医学研究部）

発育性股関節形成不全の予防・早期発見に関する課題

吉岡 京子（東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻地域看護学・公衆衛生看護学分野）

小規模自治体における人材確保・育成の課題

大柳 玲美（阿久比町役場・保健こども課）

◆オンデマンドシンポジウム 14

医学部学生へのがん予防・検診に関する教育プログラムの実施

座長：津金昌一郎（国際医療福祉大学）

井谷 修（国際医療福祉大学）

演者：医学部公衆衛生学における演習の目的と教育プログラムの全体像

鈴木 知子（国際医療福祉大学 医学部 公衆衛生学）

発がん性評価のプロセスと実際：科学的証拠に基づくがん予防の実践に向けて

津金昌一郎（国際医療福祉大学大学院医学研究科公衆衛生学専攻）

がん検診に関する専門家向け e-learning の紹介

雑賀公美子（佐久総合病院佐久医療センター総合医療情報センター）

e-learning によるがん検診の仕組みの理解と集計データ解析による精度管理の評価の実践

齊藤 英子（国際医療福祉大学三田病院予防医学センター）

◆オンデマンドシンポジウム 15

思春期を支える:ライフコースを通じた健康促進

座長: 細澤麻里子 (国立健康危機管理研究機構)

馬場 幸子 (大阪母子医療センター)

演者: 思春期メンタルヘルスのエビデンスに基づく支援

細澤麻里子 (国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター)

思春期の予期せぬ妊娠と支援体制

馬場 幸子 (大阪母子医療センター)

臨床から見える思春期の課題と実践的アプローチ

小橋 孝介 (鴨川市立国保病院)

若年層のプレコンセプションケア

前田 恵理 (北海道大学大学院医学研究院公衆衛生学教室)

◆オンデマンドシンポジウム 16

島で生きる、島で支える—公衆衛生の実践知から編み出す離島の健康と医療の未来

座長: 鈴木 貴明 (沖縄県立南部医療センター・こども医療センター)

演者: 小規模離島における母子、その家族の周産期ウェルビーイングとは

鈴木 和音 (琉球大学大学院保健学研究科 国際地域保健学教室)

地域における外科医療のあり方についての考察—Rural Surgery と Global Surgery

浅野 志麻 (沖縄県立宮古病院 外科)

離島で迎える人生の最期—屋久島における「Good Death (良い死)」を考える

杉下 智彦 (屋久島尾之間診療所)

離島における眼科遠隔診療の可能性と公衆衛生的意義

西村 裕樹 (株式会社 OUI)

ファシリテーター: 鈴木 貴明 (沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属久高診療所)

中山慎太郎 (株式会社 OUI)

◆オンデマンドシンポジウム 17

多様化する通いの場: 地域を元気にする戦略的展開とその支援

座長: 岸 恵美子 (東京医療保健大学・東が丘看護学部)

陣内 裕成 (日本医科大学・医学部)

演者: 多様な通いの場の概念整理—活動の主目的によるタイプ分類の視点から—

植田 拓也 (東京都健康長寿医療センター研究所 東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター)

多様な通いの場の立ち上げ・継続展開プロセスにおける行政に対する支援ニーズ—タイプ別の視点から—

田中 元基 (淑徳大学人文学部)

多様な通いの場の担い手発掘戦略—タイプ別の担い手特性から—

中本 五鈴 (東京都健康長寿医療センター研究所・東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター)

多様な通いの場の支援の実践

三澤 未佳 (都留市役所 福祉保健部 長寿介護課)

◆オンデマンドシンポジウム 18

理学療法士・作業療法士による働く世代の健康課題への取り組み

座長：松本 良二（八千代リハビリテーション病院）
香山 明美（東北文化学園大学、日本作業療法士協会）
演者：作業分析に基づく職域支援の実践とその効果－理学療法士の新たな役割を探る－
三戸 洋（一般社団法人 山口県理学療法士会）
地域と職域を繋ぐ！茨城県作業療法士会による健康課題への挑戦
藤田 夕子（茨城県作業療法士会）
静岡県理学療法士会における働く世代への健康づくりの取り組み
小林 敦郎（静岡県理学療法士会）
保健師の立場から理学療法士・作業療法士と連携することの有効性
橋本美弥子（枚方市保健所）

◆オンデマンドシンポジウム 19

がん登録情報を利用した感度・特異度の算出から分かったがん検診の課題とその克服

座長：雑賀公美子（佐久総合病院佐久医療センター）
田中 里奈（弘前大学大学院医学研究科）
演者：がん登録情報を利用した対策型検診の概要と研究班の取り組み
松坂 方士（弘前大学大学院医学研究科医学医療情報学講座）
市町村が主体となった対策型検診の精度管理と今後の展望 宮城県の事例
金村 政輝（宮城県立がんセンター研究所 がん疫学・予防研究部）
対策型胃内視鏡検診の精度管理におけるがん登録情報の活用に向けて
大岡沙也佳（和歌山市保健所）
がん検診の感度－偽陰性の定義及び測定法による違いとその位置づけ
斎藤 博（青森県立中央病院）

◆オンデマンドシンポジウム 20

自治体のデータヘルス計画におけるポリファーマシー対策の実践方法

座長：福田 吉治（帝京大学大学院公衆衛生学研究科）
演者：行政と薬剤師会の協働により構築した市民に身近なフレイル早期発見・相談体制の地域モデル
中川由紀代（大崎市民生部健康推進課）
薬剤師会と連携した木更津市のポリファーマシー対策
高橋由美子（木更津市）
地域における新しい標準的ポリファーマシー対策
今井 博久（帝京大学大学院公衆衛生学研究科）

◆オンデマンドシンポジウム 21

【取り下げ】

◆オンデマンドシンポジウム 22

高齢者介護を支える人を、支える ―介護施設の課題と可能性をひもとく―

- 座長：當山まゆみ（京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野）
大浦 智子（国立長寿医療研究センター研究所 老年学・社会科学研究センター 科学的介護推進チーム）
演者：介護現場の安全文化を育む：リスク認知を共有する3年間のリカレント教育プログラム
有久 勝彦（関西福祉科学大学）
介護現場で働き続ける力を育む職場環境とキャリア支援
大浦 智子（国立長寿医療研究センター研究所 老年学・社会科学研究センター 科学的介護推進チーム）
高齢者介護施設における業務改善・生産性向上の課題
當山まゆみ（京都大学大学院医学研究科健康情報学分野）
在宅医療と介護連携領域における評価指標の活用：データを用いた評価を施策提言につなげる
次橋 幸男（奈良県立医科大学 公衆衛生学講座）
指定発言者：中山 健夫（京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野）

◆オンデマンドシンポジウム 23

地域と共に歩む15年：はまかだ運動から見るフェーズフリー支援

- 座長：岩室 紳也（ヘルスプロモーション推進センター）
佐々木亮平（岩手医科大学教養教育センター）
演者：地域に根ざした健康増進計画とはまかだ運動
遠藤 綾子（陸前高田市福祉部保健課）
市民協働と対話が生んだ地域の変化 ～はまかだ運動の効果分析～
前川 明宏（岩手県県央保健所）
仮設住宅での支援がつなぐ未来 ～はまかだ運動に学ぶ共に生きる支援と介護予防～
高梨 信之（岩手医科大学衛生学公衆衛生学講座）
語りと記録が紡ぐお互い様文化～はまかだ運動の15年とこれから
日高 橘子（中京学院大学看護学部）

◆オンデマンドシンポジウム 24

子どもたちの人生を豊かに育むための地域連携 ～こころ・からだ・性の教育～

- 座長：渡會 睦子（東京医療保健大学 医療保健学部・住民とともに活動する保健師の会）
廣末 ゆか（高知学園短期大学・住民とともに活動する保健師の会）
演者：今後の児童虐待防止に向けた課題と展望：児童虐待防止関連法や児童相談所の多職種連携の観点から
湯川 慶子（国立保健医療科学院）
横浜市泉区「0歳から始まる生きる力の土台づくり」～地域連携の取り組み報告～
坂田 純子（横浜市泉区こども家庭支援課）
いわき市「いのちを育む教育」の取り組み
坂本沙知枝（いわき市 こどもみらい部 こども家庭課）
児童養護施設における紙芝居で伝える「生きるための心を伝える教育」の効果
會田 健司（山形学園）

◆オンデマンドシンポジウム 25

電波のモニタリングプロジェクトと効果的なコミュニケーション

座長：小島原典子（静岡社会健康医学大学院大学）

多氣 昌生（情報通信研究機構・電磁波研究所）

演者：電波ばく露レベルのモニタリング

多氣 昌生（国立研究開発法人情報通信研究機構 電磁波研究所）

子ども・青少年への電波の影響に関する疫学研究：北海道スタディ

田村菜穂美（北海道大学環境健康科学研究教育センター）

電波に関するコミュニケーションの取り組み

山口さち子（国立研究開発法人情報通信研究機構 電磁波研究所 電磁波標準研究センター 電磁環境研究室）

電波のリスクコミュニケーション活動

大久保千代次（一般財団法人電気安全環境研究所 電磁界情報センター）

WHO 国際電磁界プロジェクトの概要と最近の動向

牛山 明（国立保健医療科学院）

◆グループワーク 1

10月28日（火） 13:15～16:15 第8会場（910）

持続可能なユニバーサルヘルスカバレッジと健康の公平性について考えるワークショップ

座長：伊藤 ゆり（大阪医科薬科大学 医学部 医療統計学）

市川 衛（武蔵大学 社会学部 メディア社会学科）

轟 浩美（全国がん患者団体連合会）

演者：二木 立（日本福祉大学）

伊藤 ゆり（大阪医科薬科大学 医学部 医療統計学）

後藤 温（横浜市立大学 医学部 公衆衛生学）

天野 慎介（全国がん患者団体連合会）

市川 衛（武蔵大学 社会学部 メディア社会学科）

指定発言：桜井なおみ（全国がん患者団体連合会）

ファシリテーター：伊藤 ゆり（大阪医科薬科大学）

市川 衛（武蔵大学）

天野 慎介（全国がん患者団体連合会）

桜井なおみ（全国がん患者団体連合会）

轟 浩美（全国がん患者団体連合会）

前田 留里（全国がん患者団体連合会）

後藤 温（横浜市立大学）

柿崎真沙子（愛知医科大学）

◆グループワーク 2

10月28日（火） 13:15～16:15 第9会場（904）

急性期の地域の保健医療福祉調整本部での指揮系統の確立と急性期以降の本部の移行 地域保健医療福祉調整体制の確立：急性期から亜急性期にかけて

座長：近藤 久禎（国立健康危機管理研究機構危機管理運営局 DMAT 事務局）

ファシリテーター：千島佳也子（国立健康危機管理研究機構危機管理運営局 DMAT 事務局）

是枝 大輔（国立健康危機管理研究機構危機管理運営局 DMAT 事務局）

◆グループワーク 3

10月29日(水) 8:50~10:20 第8会場(910)

中小規模医療機関等のサイバーセキュリティの脆弱さと脅威に対する外部支援

- 座長：久保 秀一（千葉県印旛保健所）
竹内 公一（千葉県松戸保健所）
原田 昌範（山口県立総合医療センター）
演者：サイバーセキュリティの基本と現状
近藤 博史（日本遠隔医療協会）
セキュリティについての情報の活用
長谷川高志（日本遠隔医療協会）
ファシリテーター：大西 浩文（札幌医科大学医学部公衆衛生学講座）
黒鳥 偉作（北海道大学大学院医学研究院・医学院社会医学分野公衆衛生学教室）
真原 仁（鴨川市立国保病院）
相羽 良寿（埼玉県立大学保健医療福祉学部）

◆グループワーク 4

10月29日(水) 13:10~14:40 第8会場(910)

実用的な抽出調査を自ら企画してみよう ～途上国での方法を日本に活用するには～

- 座長：磯 博康（国立健康危機管理研究機構 グローバルヘルス政策研究センター）
蜂矢 正彦（国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局）
演者：駒田 謙一（国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局）
細澤麻里子（国立健康危機管理研究機構 グローバルヘルス政策研究センター）
ファシリテーター：市村 康典（国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局）
本田 真梨（国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局）

◆グループワーク 5

10月29日(水) 14:50~16:20 第8会場(910)

プラネタリーヘルスで考える自治体公衆衛生対策

- 座長：鹿嶋小緒里（広島大学大学院 IDEC 国際連携機構プラネタリーヘルス・イノベーションサイエンスセンター）
鈴木 秀（日本医療政策機構）
演者：プラネタリーヘルスに必須の要素
渡辺 知保（長崎大学大学院プラネタリーヘルス学環）
健康都市のアプローチ
中村 桂子（健康都市連合）
袋井市の食と健康：プラネタリーヘルスの実践事例
石塚 浩司（静岡県袋井市）
亀山の「KISEKI」～緑の健都をめざして～
櫻井 義之（三重県亀山市）
ファシリテーター：菅原 丈二（日本医療政策機構）

◆グループワーク 6

10月29日(水) 16:30~18:00 第8会場(910)

専門職キャラ化ワークショップ～各職種の特徴と大切さ、そして面白さを再発見する手法

座長：柴崎 智美（埼玉医科大学）
田口 孝行（埼玉県立大学）
ファシリテーター：長井麻希江（城西大学薬学部薬学科）
北山 聖也（埼玉医科大学）
米岡 裕美（埼玉医科大学）
阪下 竜也（埼玉県福祉監査課）
井上 直子（埼玉医科大学）

◆グループワーク 7

10月29日(水) 9:00~11:00 第9会場(904)

あなたのまちの「治し、支える医療」やってみよう！地域診断グループワーク

座長：小倉加恵子（鳥取県倉吉保健所）
演者：本木 隆規（奈良県福祉保険部医療政策局）
南 和（高知県中央西福祉保健所）
小守林靖一（岩手県北広域振興局保健環境福祉部）
徳本 摩依（宮崎県都城保健所）
藤本 幸（沖縄県保健医療介護部南部保健所）
指定発言者：岡本 浩二（埼玉県川口市保健所）
福永 一郎（高知県須崎福祉保健所）
山本 大祐（関西医科大学看護学部・看護学研究科広域看護分野在宅看護学領域）
柳 尚夫（岐阜県障がい者総合相談センター内 岐阜県精神保健福祉センター）
ファシリテーター：片山 幸（愛知県名古屋市保健所中村保健センター）
長井 大（鳥取県鳥取市保健所）

◆グループワーク 8

10月29日(水) 13:00~14:30 第9会場(904)

「ケアとともに生きる家族」支援実践の課題～実践知と研究の協働による家族支援の展望を描く

座長：涌井 智子（東京都健康長寿医療センター研究所）
演者：ケアする家族をどのようにとらえるのか
松澤 明美（北海道大学大学院保健科学研究院）
介護者の定義について：医療政策研究者の視点から
宮脇 敦士（筑波大学医学医療系 社会医学研究グループ 公共健康政策分野）
わが国のケアを担う家族への支援の現状
森山 葉子（国立保健医療科学院）
スウェーデンにおけるケアに携わる家族に対する支援状況
谷口 雄大（筑波大学医学医療系ヘルスサービスリサーチ分野）

◆グループワーク 9

10月29日(水) 14:40~16:10 第9会場(904)

若者のアルコール・薬物問題からの回復を支えるグループワーク

座長：白井 千香（枚方市保健所）

大村 美保（筑波大学人間系）

指定発言者：岩室 紳也（ヘルスプロモーション推進センター“オフィスいわむろ”）

ファシリテーター：白井 千香（枚方市保健所）

大村 美保（筑波大学人間系）

朝日 華子（NPO 法人茨城居場所研究会）

鈴木 葉菜（筑波大学人間総合科学学術院）

岩室 紳也（ヘルスプロモーション推進センター“オフィスいわむろ”）

渡邊洋次郎（リカバリハウスいちご）

◆グループワーク 10

10月29日(水) 16:20~17:50 第9会場(904)

D24H を用いた避難所アセスメントと情報分析

座長：市川 学（芝浦工業大学）

◆グループワーク 11

10月30日(木) 9:30~11:30 第8会場(910)

地域医療構想と健康づくりに向けてデータを語り合おう

座長：猪飼 宏（京都府立医科大学）

小林 大介（富山大学）

演者：「新たな地域医療構想」とデータ活用の全体像

猪飼 宏（京都府立医科大学 附属病院 医療情報部）

地域医療構想調整会議等で話題になる「医療従事者不足」「高齢化の問題」をどのようにデータで示す？

桑木光太郎（久留米大学医学部公衆衛生学講座）

医療介護連携の視点からみる地域評価の試み

谷口 雄大（筑波大学医学医療系ヘルスサービスリサーチ分野）

オープンデータの活用促進：BI ツールの活用とデータ分析への期待

清水沙友里（横浜市立大学データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻）

新たな地域医療構想を見据えたデータ分析体制へ

佐藤 大介（藤田医科大学）

指定発言者：小林 大介（富山大学）

山名 隼人（自治医科大学）

ファシリテーター：今中 雄一（京都大学）

◆グループワーク 12

10月30日(木) 13:00~14:30 第8会場(910)

若手行政職員のためのケーススタディ

座長：宮園 将哉（大阪府岸和田保健所）
宗 陽子（長崎県県央保健所（兼）長崎県国保・健康増進課）
演者：警察署からの精神保健福祉法 23 条通報事例への行政対応を学ぶ
岩瀬 敏秀（岡山県備前保健所）
母子保健領域における養育リスクへの気づきと支援について考える
藤井 可（熊本市役所）
ファシリテーター：武智 浩之（群馬県健康福祉部感染症・疾病対策課）
劔 陽子（熊本県阿蘇保健所）
堀切 将（福島県県中保健所）
北岡 政美（金沢市保健所試験検査課）
平本 恵子（広島県西部厚生環境事務所・保健所）

◆グループワーク 13

10月30日(木) 14:50~17:50 第8会場(910)

ロジックモデルを活用した地域診断と施策評価～データとフォームを使った模擬体験～

座長：芳我ちより（香川大学医学部看護学科地域看護学）
埴岡 健一（国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科）
演者：ロジックモデルを活用した地域診断と施策評価～データとフォームを使った模擬体験～
埴岡 健一（国際医療福祉大学大学院）
ファシリテーター：芳我ちより（香川大学医学部看護学科地域看護学）
埴岡 健一（国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科）
高嶺 公子（沖縄県保健医療介護部地域包括ケア課）
長浜麻紀子（沖縄県保健医療介護部医療政策課）
藤川 愛（高松市保健所）
増田 昌人（琉球大学病院がんセンター）
松本 佳子（医療経済研究機構）
吉田 真季（医療経済研究機構）
米須 愛子（沖縄県保健医療介護部健康長寿課）

◆グループワーク 14

10月30日(木) 9:00~10:30 第9会場(904)

専門人材不足が進む小規模自治体で住民の健康と well-being をどうまもるか

座長：塩見 美抄（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻）
吉岡 京子（東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻）
演者：保健師一人で村民と共に健康な村づくりに挑む北山村の取り組み
山崎 真美（北山村役場 住民福祉課）
過疎化が著しい但馬圏域で住民の健康長寿に取り組む市町を支援する兵庫県理学療法士・作業療法士の役割
小森 昌彦（兵庫県但馬県民局但馬長寿の郷）
指定発言者：真山 達志（同志社大学政策学部・総合政策科学研究科）
福永 一郎（高知県須崎福祉保健所）
ファシリテーター：細谷 紀子（千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科）

◆グループワーク 15

10月30日(木) 13:20~14:50 第9会場(904)

住民と創る健康教育教材 — すごろくを活用した地域発ワークショップ

座長：古川 馨子（牧之原市役所健康推進部）

演者：楽しみながら実践につなげる健康教育—すごろく教材の体験と開発ワークショップ

伊藤 純子（静岡県立大学）

高橋佐和子（神奈川県立保健福祉大学）

◆グループワーク 16

10月30日(木) 15:10~16:40 第9会場(904)

診療ガイドラインの推奨作成における正味の益、患者の多面的価値観の評価法

座長：小島原典子（静岡社会健康医学大学院大学）

演者：ガイドラインのための定量的ベネフィット・リスク評価

森實 敏夫（静岡社会健康医学大学院大学）

ファシリテーター：畠山 洋輔（東邦大学）

◆グループワーク 17

10月31日(金) 10:00~12:00 第8会場(910)

最近の産業医活動における対応困難事例への対応（日医認定産業医の実地単位）

座長：大神 明（産業医科大学産業生態科学研究所 作業関連疾患予防学）

演者：大神 明（産業医科大学産業生態科学研究所 作業関連疾患予防学）

内野 文吾（ヤマハ発動機株式会社 安全健康推進部健康推進グループ）

川島 正敏（東海旅客鉄道株式会社 健康管理センター 名古屋健康管理室）

西 賢一郎（ジヤトコ株式会社人事部門付 統括産業医）

◆グループワーク 18

10月31日(金) 13:00~17:00 第8会場(910)

感染症リスクアセスメント研修

座長：白井 千香（枚方市保健所）

杉下 由行（東京都保健医療局）

演者：押谷 仁（東北大学大学院医学系研究科）

中島 一敏（大東文化大学）

加来 浩器（防衛医学研究センター）

砂川 富正（JIHS）

指定発言者：白野 倫徳（大阪市立総合医療センター）

ファシリテーター：三崎 貴子（川崎市健康安全研究所）

前田 秀雄（結核予防会）

◆グループワーク 19

10月31日(金) 9:30～11:30 第9会場(904)

子どもの健康と未来を守る！スマホ・ネット依存予防の実践を広げよう

座長：瀬在 泉（防衛科大学校医学教育部看護学科）
山田 正明（富山大学医学部 疫学健康政策学講座）
演者：ネット依存は脳に害？小中学校での依存症教育
山田 正明（富山大学医学部 疫学健康政策学講座）
近視と内斜視 ～スマートフォンでの近見作業が視覚に及ぼす影響～
三原 美晴（富山大学学術研究部医学系眼科学）
ジョブズ親テストを活用した身近な人への情報提供 ～保健師や児童相談所職員へ～
八幡亜紀子（神奈川県職員厚生課）
どう守る？デジタルネイティブの子どもの脳 母子保健の現場における実践報告
富岡ひとみ（スマホ依存防止学会）
指定発言者：磯村 毅（予防医療研究所 スマホ依存防止学会代表）

◆グループワーク 20

10月31日(金) 14:45～16:15 第9会場(904)

静岡県が推進する「伊豆温泉ヘルスケアイノベーションプロジェクト（ICOI）」

座長：後藤 康彰（日本健康開発財団）
早坂 信哉（東京都市大学）
演者：タイのウェルネスと伊豆の温泉を組み合わせた温浴ウェルビーイング
後藤 康彰（日本健康開発財団）
伊豆半島における活動 自転車を活用したクロストレーニングとそのリカバリー
平塚 吉光（ICOI プロジェクト）
ウェルネスを軸とした温泉地滞在と地域文化体験
嶋田慎一郎（熱川プリンスホテル）
温泉を活用した学生向けケガの予防・再発防止と温泉を通じて生まれた学生と地域との関わり
稲葉 正義（ひまわり接骨院）
ファシリテーター：後藤 康彰（日本健康開発財団）

◆公衆衛生専門管理栄養士専門研修 1

10月30日(木) 16:00～17:30 第5会場(1001-1)

生活困窮と健康・栄養格差：支援現場で求められる知識と実践

座長：由田 克士（大阪公立大学大学院 生活科学研究科）
演者：西岡 大輔（京都大学大学院医学研究科 社会的インパクト評価学講座）

◆公衆衛生専門管理栄養士専門研修 2

10月31日(金) 9:00～10:30 第7会場(映像ホール)

健康的で持続可能な食環境づくり：栄養・食生活の社会環境の質の向上

座長：諸岡 歩（兵庫県伊丹健康福祉事務所）
演者：坂口 景子（淑徳大学看護栄養学部栄養学科）

◆奨励賞受賞講演

10月30日(木) 14:40~15:50 第6会場(908)

座長：安村 誠司(福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター)

演者：COVID-19の5類化等に関する全国保健所長の意識調査

柴田 敏之(大阪府泉佐野保健所)

生活困窮者の健康支援戦略の学術的開発と実装に関する研究

西岡 大輔(京都大学大学院医学系研究科社会的インパクト評価学講座)

行政組織改正を契機に実装した保健師による地域担当制に基づく地域保健活動の再構築

二宮 博文(東京都保健医療局保健政策部)

◆優秀演題選考会

10月29日(水) 13:00~15:00 第2会場(交流ホール)

座長：渡井いずみ(浜松医科大学医学部看護学科地域看護学)

田宮葉奈子(筑波大学 医学医療系 ヘルスサービスリサーチ分野)

演者：高齢者の歩行促進におけるデジタルピアサポートの効果：クラスターランダム化比較試験

中込 敦士(千葉大学予防医学センター)

職場における孤独感が6か月後の離職に関連する：E-COCO-J コホート研究

佐々木那津(東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野)

小児期から中年期に至るまで生涯の家庭内受動喫煙が及ぼすCVD・がん死亡への影響

坂庭 嶺人(大阪大学医学系研究科)

特定妊婦の個別支援の充実に向けたタイプ別基本指導箋の開発：第1報 タイプ分類

眞栄里彩笑(大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻)

医療機関のキャパシティを考慮した訪問診療サービスの地理的アクセシビリティの分析

森井 康博(国立保健医療科学院 保健医療経済評価研究センター)

診療の質プロセスを通して学術活動が急性心筋梗塞のアウトカムに及ぼす影響：因果媒介分析

高田 大輔(同志社女子大学 生活科学部 食物栄養科学科)

全がん・がん種別死亡の教育歴による格差：7年間のJAGESコホート調査による媒介分析

木内 桜(東京科学大学)

ゲーミフィケーション・アプリのインセンティブ導入による歩数分布の変化：集群推定法

柄澤 紀花(東京都健康長寿医療センター研究所)

感染症危機管理と入国時感染症ゲノムサーベイランス：初年度の解析および評価

高橋里枝子(厚生労働省羽田空港検疫所支所)

審査委員：安村 誠司(福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センター)

関根 道和(富山大学)

村上 義孝(東邦大学医学部社会医学講座医療統計学分野)

◆国際参加賞受賞講演 International Participant Award Awardee Lecture

10月30日(木) 12:50~14:45 第7会場(映像ホール)

Thursday, October 30, 12:50~14:45 Venue 7 (The second-floor Audio-Visual Hall)

Co-chairs:

Yoshiharu Fukuda (Teikyo University)

Maki Taniguchi (Institute of Science Tokyo)

Makiko Sekiyama (National Institute for Environmental Studies)

Eiko Yamamoto (Nagoya University)

Masako Kageyama (Osaka University)

Tomofumi Sone (National Institute of Public Health)

Presenter:

The Impact of Temperature Rise from Climate Change on Severity and Gene Expression in Asthma

Firdian Makrufardi (Faculty of Medicine, Public Health, and Nursing, Universitas Gadjah Mada)

Internet addiction and psychological distress among students in Bangladesh

Moynul Haque (Department of Population Science and Human Resource Development, University of Rajshahi, Bangladesh)

KAP Survey on Occupational Safety and Sustainability of Radiology Practice in D.R. Congo

Serge Boika Mongu (Kinshasa University Faculty of Medicine, D.R. Congo)

Sero-epidemiology of human leptospirosis in subtropical Bhutan

Monu Tamang (Graduate School of Public Health, International University of Health and Welfare, Narita, Japan)

Association of Rotavirus vaccination with Antibiotic prescription in Thailand

Boonyossawat Chaiyun (International University of Health and Welfare)

Outpatient Antibiotic Prescribing Patterns for Acute Respiratory Infections in Mongolia

Gerelmaa Danzan (Graduate School of Public Health, International University of Health and Welfare, Japan)

Socioeconomic and education-based inequalities in child marriage in Bangladesh

Md Mahfuzur Rahman (Graduate School of Public Health, St. Luke's International University, Tokyo, Japan)

Dental Caries Inequalities in Indonesia: Urban Rural and Education Effects

Fadli Alwi (Institute of Science Tokyo)

Exploring the causes of suicide attempts in Mongolia: Surveillance-based analysis

Saruul Gankhuyag (Department of Public Health and Health Policy, Graduate School of Biomedical and Health Sciences, Hiroshima University, Japan)

◆指導医講習会

10月30日(木) 8:30~9:30 第5会場(1001-1)

演者: 前田 光哉 (前環境省環境保健部長)

今中 雄一 (京都大学医学研究科 ヘルスセキュリティセンター/社会健康医学系専攻)

大神 明 (産業医科大学 産業生態科学研究所 作業関連疾患予防学)

和田 裕雄 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学)

◆健康危機管理対応人材育成に関する合同検討委員会ワークショップ

10月28日(火) 16:30~18:00 第3会場(会議ホール)

健康危機管理を多職種連携教育から考える~卒前教育現場での課題と展望~

進行: 高橋 礼子 (愛知医科大学 災害医療研究センター)

富尾 淳 (国立保健医療科学院 健康危機管理研究部)

演者: 地域のリソースを活用した健康危機管理の多職種連携教育の取り組み

和泉 邦彦 (藤田医科大学 医学部地域医療産学連携共同研究講座)

学生主体で取り組む多職種での健康危機管理の学び

高橋 善明 (浜松医科大学 救急災害医学)

◆ランチョンセミナー 1

10月29日(水) 12:20~13:20 第1会場(中ホール)

誰一人、大腸がんで亡くならない世界へ

座長：三宅 基隆（国立がん研究センター中央病院放射線診断科）
演者：鶴丸 大介（九州大学大学院医学研究院臨床放射線科学分野）
森本 毅（聖マリアンナ医科大学放射線診断・IVR科）
岡本 将輝（Boston Medical Sciences 株式会社）
共催：Boston Medical Sciences 株式会社

◆ランチョンセミナー 2

10月29日(水) 11:45~12:45 第2会場(交流ホール)

健診・レセプトデータを活用した健保組合向け医療費ベンチマークの開発および健康増進に向けた日本生命の取組み

座長：高本 洵（日本生命保険相互会社）
演者：五十嵐 中（東京大学大学院薬学系研究科／横浜市立大学データサイエンス研究科）
衣川 潤（日本生命保険相互会社）
共催：日本生命保険相互会社

◆ランチョンセミナー 3

10月29日(水) 13:00~14:00 第3会場(会議ホール)

静岡県の取組み

座長：川田 敦子（静岡県健康福祉部健康局健康増進課）
演者：MASH 対策始めまっしゅ～遅れて来た生活習慣病、脂肪肝～
後藤 幹生（静岡県健康福祉部感染症管理センター・富士健康福祉センター）
健康データ担当は天下を取りにいく～統計屋のひとりごと～
平山 朋（静岡県健康福祉部健康局健康政策課）
共催：総会主催（静岡県）

◆ランチョンセミナー 4

10月30日(木) 13:10~14:10 第1会場(中ホール)

若年層から高齢者までの健幸支援～内閣府 SIP「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」で創出する社会技術

座長：久野 譜也（内閣府 SIP「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」プロラムディレクター／筑波大学大学院人間総合科学学術院）
溝田 友里（厚生労働省 健康・生活衛生局、医政局／静岡社会健康医学大学院大学）
演者：女性のライフコースにおける健幸支援
塚尾 晶子（株式会社つくばウエルネスリサーチ）
高齢者と遠隔家族をつなぐデジタル同居サービスによる健康寿命延伸策
山岡 勝（パナソニック ホールディングス株式会社）
指定発言者：菅原 文仁（埼玉県戸田市市長）
SIP「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」世の中ちょっと良くする部 わたしたちの未来会議 部員（玉川学園中高生）
共催：国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所

◆ランチョンセミナー 5

10月30日(木) 12:00～13:00 第2会場(交流ホール)

浜松市民の健康診断等ビッグデータ解析・評価

座長：春山 康夫（獨協医科大学公衆衛生学講座）
演者：武藤 繁貴（社会福祉法人 聖隷福祉事業団 保健事業部）
共催：社会福祉法人 聖隷福祉事業団 保健事業部

◆ランチョンセミナー 6

10月30日(木) 11:50～12:50 第3会場(会議ホール)

なぜワクチンを打たないのか。～歴史と心理から読み解く「接種控え」～

座長：相馬 和平（アイブリッジ株式会社）
演者：町田 征己（東京医科大学公衆衛生学分野／東京医科大学病院感染制御部）
共催：アイブリッジ株式会社

◆ランチョンセミナー 7

10月30日(木) 13:00～14:00 第4会場(1001-2)

静岡市、浜松市の取り組み

座長：田中 一成（静岡市保健福祉長寿局・保健所）
板倉 称（浜松市保健所）
演者：政令市における新型コロナウイルス感染症への対応の一例
田中 一成（静岡市保健福祉長寿局・保健所）
大規模災害時における保健医療と福祉のマネジメント体制
西崎 公康（浜松市健康福祉部健康医療課）
共催：総会主催（静岡市・浜松市）

◆ランチョンセミナー 8

10月31日(金) 12:25～13:25 第1会場(中ホール)

避妊法の選択と避妊指導の実践

座長：杉村由香理（日本家族計画協会）
演者：北村 邦夫（日本家族計画協会）
共催：あすか製薬株式会社

◆ランチョンセミナー 9

10月31日(金) 12:00～13:00 第2会場(交流ホール)

レセプト点検の現状と課題

座長：中野 由美（レセ・スタッフ株式会社）
演者：中野 由美（レセ・スタッフ株式会社）
共催：レセ・スタッフ株式会社

はじめまして静岡 SPH! ～地域を支え、世界をもっと健康にする静岡 SPH の歩みと未来～

座長：田原 康玄（静岡社会健康医学大学院大学）

山本精一郎（静岡社会健康医学大学院大学）

演者：田原 康玄（静岡社会健康医学大学院大学）

佐藤 洋子（静岡社会健康医学大学院大学）

山本精一郎（静岡社会健康医学大学院大学）

共催：総会・静岡社会健康医学大学院大学